

令和4年度 全国学力・学習状況調査の甲府市における調査結果のポイント

甲府市教育委員会
学校教育課

文部科学省は、本年4月19日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果を公表しました。

この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や児童生徒の生活状況の実態等を明らかにすることにより、各学校における児童生徒への指導内容の充実や指導方法の改善、日々の生徒指導等に役立てることを目的としております。

各学校におきましては、自校の調査結果を分析し、課題等を明らかにした上で、指導方法の改善等に役立てながら授業を行っております。また、分析結果につきましては、学校便りなどを通して保護者や地域住民の皆様にお知らせするとともに、各学校のホームページにも掲載する予定です。

なお、各学校では、調査に参加した児童生徒並びにその保護者に対しまして、個別懇談等を通して、個人結果票をもとに、個々の課題や今後の努力点を丁寧に説明し、課題等を共有しながら学力向上に向けて家庭との連携を図るよう努めています。

甲府市教育委員会としましても、市内各小中学校の調査結果を分析、検討し、本市としての全体的な状況や課題等を次のとおりまとめ、今後、各小中学校への指導助言に役立てて参ります。



1 調査の本市の概要

(1) 実施日 令和4年4月19日(火)

(2) 調査内容

○実施学年 小学校第6学年，中学校第3学年

○調査内容

[教科に関する調査]

小学校・・・国語，算数，理科 中学校・・・国語，数学，理科

◇出題内容

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な問題解決のための構想を立て，実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では，上記①と②を一体的に問う。

[生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査]

◇児童生徒に対する調査

・学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査。

◇学校に対する調査

・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査。

(3) 参加状況

校種	参加学校数	参加学年・参加人数
小学校	25校	6年生・1161人
中学校	11校1分校	3年生・1184人

2 教科に関する調査の本市の結果について

(1) 全体の結果 【平均正答率で見た甲府市の状況：全国・山梨県との比較】

		小学校(6年生)			中学校(3年生)		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科
全国		65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	49.3
山梨県		64	62	62	70	51	50
甲府市	国との比較	△	△	△	○	○	○
	県との比較	○	○	○	○	○	○

※表の見方：「○」…「同じ」あるいは「上回っている」

「△」…「下回っている」

◇全体の概要

○教科に関する調査の平均正答率は、小学校・中学校ともすべての教科（国語，算数・数学，理科）において，全国と比べて－0.6%から＋1.0%の範囲内にある（昨年度は－2.2%から＋1.4%の範囲内）。

〔小学校〕

・すべての教科（国語，算数，理科）において，全国平均正答率を下回ったが，県平均正答率は上回っている。

〔中学校〕

・すべての教科（国語，数学，理科）において，全国平均正答率を上回っている。県平均正答率との比較では，国語および理科は同程度であり，数学においては上回った。

（２）各教科の結果

■ 小学校国語

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

該当なし

【全国平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3三ウ	【文章2】の中の「部ウ」を，漢字を使って書き直す（ <u>したしむ</u> ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6年 言葉の特徴や使い方に関する事項	H28A ¹ 二2

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に，【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章の良いところを見付ける	5・6年 書くこと	

【本市の傾向・課題】

- 平均正答率については，県をやや上回り，全国とはほぼ同等の結果となった。
- 無解答率については，記述式の設問で高い傾向が見られたが，全体的に全国，県と比較すると低い傾向であった。
- 「文の中で漢字を使う」設問については，3問中1問（「反省」）は全国平均正答率を上回ったが，正答率は低かった。表に示した設問（3三ウ「したしむ」）については，過去（H28）に同様な問題が出題されているが，過去問同様に，全国の平均正答率を下回る結果となった。「文の中で漢字

を使う」ことについては引き続き課題が残る。

- 昨年度課題であった「読むこと」（思考力、判断力、表現力等）に関する設問については、全ての設問の平均正答率が全国及び県を上回る結果となった。一方、次に示す力を問う、「書くこと」（思考力、判断力、表現力等）に関する設問の平均正答率が低く、全国を下回る結果となった。
- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること
 - ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけて書くこと
- 表に示した設問（3二）は、思考力、判断力、表現力等の「B書くこと」の「共有」に関する指導事項を問う、本調査で初めての問題である。

【 改善のための方策 】

○漢字を正しく使って、文や文章を書く指導の充実

- ・漢字の学習指導にあたっては、実生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、読み方や字形に注意しながら、漢字を使って文や文章を書く機会を意図的・計画的に設定することとともに、本設問のように、文章の推敲の中で、漢字の正しい使い方を習得する指導が大切である。そして、日ごろから漢字の学習と実生活とを結びつけ、漢字に対する興味関心や漢字を使おうとする態度を高める働きかけが求められる。

○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけて書く指導の充実

- ・読み手に自分の考えを明確に伝えるには、自分で書いた文章を読み返し、文や文章を整えることが必要である。そのためには、文章全体の構成や書き表し方などが明確になっているかなどに着目し、文章に対する感想や意見を他者と伝え合い、自分の文章のよいところを、観点をもとに見つけることができる力を身に付けることが大切である。
- ・指導にあたっては、クラス全体で「文章のよさ」を見付けるための観点を整理し、それを基に、自分の書いた文章について、ペアやグループで意見交換させ、それぞれが「自分の文章のよさ」に気づけるような言語活動を取り入れることが考えられる。

■ 小学校算数

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

該当なし

【全国平均正答率より3ポイント以上低いもの】

該当なし

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1(4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	4年 数と計算	H21A ² (3) H24B ⁴ (2) H25A ² H27B ⁴ (1) H27B ⁴ (2) H27B ⁴ (3)
2(3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果樹の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している	5年 変化と関係	H24A ⁹ H29A ¹ (1) H30A ¹ (1) H30A ⁷ (2) R3 ¹ (2)

【本市の傾向・課題】

- 全国及び県の平均正答率とほぼ同等の結果となった。また、全国及び県と同様に、無解答率が高い設問もある。
- 「数と計算」の領域では、二つの数の最小公倍数を求めることはできている。また、示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する場面では、全国及び県を上回る正答率となった。その反面、示された場面に即して、目的に合った数の処理の仕方を考察することについては、低い正答率となった。
- 「変化と関係」の領域では、割合を用いて問題を解決する場面において、数量（飲み物の量）が変わっても割合（飲み物の濃さ）は変わらないことを理解することについては、低い正答率となった。
- 学習指導要領に新設された「データの活用」の領域において、表の各欄と合計欄の意味を理解してある項目に当たる数を求めることはできているが、目的に合う円グラフを選び、読み取った情報を答えることに課題がある。
- 「図形」の領域では、図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成について理解することはできている。一方、正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに課題がある。

【改善のための方策】

○「数と計算」に関する指導の充実

- ・日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるように指導することが重要である。その際、概算する方法（切り上げ、切り捨て、四捨五入）が適切であるかどうかを判断できるように指導することが大切である。
- ・二つの数量に関わる事象において、目的に応じて、どちらか一方の数量を揃え、その数量に伴って変わるもう一方の数量の大きさを比較することができるようにすることが大切である。
- ・問題場面の数量の関係に着目し、除法で求められる場面であると解釈して、除法の計算を日常生活に生かすことができるようにする。

○「変化と関係」に関する指導の充実

- ・日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式を用いて基準量の間接関係を表したりすることができるように指導することが大切である。
- ・学習の中で、基準量、比較量、割合の関係を捉えることができるように意識して指導していく。
- ・日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解できるようにすることが大切である。
- ・伴って変わる二つの数量の間にある比例の関係を見だし、その比例の関係を用いて、未知の数量を求めることができるようにする。

○「データの活用」に関する指導の充実

- ・日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できるように指導することが大切である。
- ・データの特徴を捉え考察したり、見いだしたことを表現したりすることができるようにするためには、表の意味を理解し、表に表したり、表を読んだりすることができるように指導していく。
- ・日常の事象について、目的に応じて、データを整理する観点に着目し、データの特徴を捉え考察できるようにすることが大切である。

○「図形」に関する指導の充実

- ・辺の長さや角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えたり、作図の仕方を筋道を立てて説明したりすることができるように指導することが大切である。
- ・図形の意味や性質を基に、図形を構成する要素に着目し、図形の構成の仕方について考察できるように指導していく。

■ 小学校理科

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2(2)	水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている	5年 A 物質・エネルギー	
3(3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	3年 A 物質・エネルギー B 生命・地球	H24 ² (5) H27 ¹ (5)
4(4)	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	4年 A 物質・エネルギー B 生命・地球	H27 ⁴ (5)

【全国平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2(1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している	5年 A 物質・エネルギー	H27 ³ (4)

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2(4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	4年 5年 A 物質・エネルギー	

3(1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している	3年 A 物質・エネルギー				
3(4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	3年 A 物質・エネルギー	H27 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>1</td></tr></table> (3) H27 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>3</td></tr></table> (6) H30 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>2</td></tr></table> (3)	1	3	2
1							
3							
2							

【本市の傾向・課題】

- 全国及び県の平均正答率とほぼ同等の結果となった。また、無解答率は、全国及び県よりも数値が低い設問が多く、粘り強く解答している。
- 実験器具や自然の事物・現象に関する理解に課題がある。
- 他者の気づきを分析し、自分の考えをもつことに課題がある。
- まとめをする際の、根拠となる実験結果（事実）の把握に課題がある。
- 自分の考えを表出し、記述することに課題がある。

【改善のための方策】

○実験・観察を実体験させる指導の充実

- ・実験器具等については、可能な限り一人一人が操作を体験する場面を設定し、目的に応じた器具を選択することの重要性を理解させることが大切である。
- ・児童自身に予想をしっかり立てさせ、目的意識をもって実験に取り組ませるとともに、そこで得た知識を、実際の事物・現象と関連付けて説明するような場面を設定し、より深い理解へとつなげていくことが大切である。

○自分や他者の気づきから問題を見いだす指導の充実

- ・複数の自然の事物・現象に働きかけて出てきた事実について、自分や他者の気づきを比較し、差異点や共通点に基づいて、児童自身に問題を見いださせる。それを学級全体で解決すべき問題として設定していくことが大切である。また、児童から出される疑問点は、児童が調べたいことに着目し、科学的に解決できる問題を設定することも大切である。

○実験の結果を根拠とし、自分の考えを説明する指導の充実

- ・実験で得た結果は、事実として具体的な数値等を学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだしていく活動が大切である。また、記述が苦手な児童には、記述例を示し、適切なものを選ばせることで、書き方に慣れさせていくことも考えられる。

■ 中学校国語

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	1年 言葉の特徴や使い方に関する事項 話すこと・聞くこと	
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	1年 情報の扱い方に関する事項 書くこと	H31 ¹ 三
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する	1年 我が国の言語文化に関する事項	H29A ⁹ 六2 H30A ⁸ 五 R2 ¹ 二

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

該当なし

【正答率が40%に満たないもの】

該当なし

【本市の傾向・課題】

- 本市の平均正答率は、ほとんどの設問において全国平均を上回っている。
- 課題としては、1三「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」問題の無解答率が比較的に高いこと、また3一「表現の技法について理解する」問題の正答率が国を1ポイント以上下回っていることがあげられる。

【 改善のための方策 】

○話すこと・聞くことの指導の充実

- ・「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」ためには、聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、話す速度や音量、間の取り方などに注意する必要がある。指導にあたっては、音声の働きや仕組みについて、また体言止めや倒置法などの表現の技法について理解させるとともに、それらを関連付けながら考えさせることも大切である。

○言葉の特徴や使い方に関する事項の指導の充実

- ・比喩、体言止めなど「表現の技法について理解する」ためには、小学校で学んだことを振り返り、それぞれの表現技法が「比喩」や「体言止め」などの名称で呼ばれることを、その意味や用法とともに学習することが大切である。また、話や文章の中で、適切に活用する力を身に付けることも求められており、指導にあたっては、実際の言語活動と関連させることが重要である。

■ 中学校数学

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	1年 数と式	

【全国平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している	2年 関数	H26A ¹¹ (1) H29A ¹¹ (2)

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している	2年 関数	H26A ¹¹ (1) H29A ¹¹ (2)
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2年 数と式	
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	1年 関数	H25B ³ (2) H29B ³ (2) R3 ⁷ (2)
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2年 図形	

【本市の傾向・課題】

- 全国平均正答率とほぼ同等の結果となっている。全ての設問で無解答率が全国より低く、粘り強く取り組む姿勢が見受けられる。
- 「数と式」の領域では、「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし説明すること」に関する問題に課題がある。
- 「図形」の領域では、「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること」に関する問題の正答率が低い。

- 「関数」の領域では、「一次関数の変化の割合の意味を理解していること」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」に関する問題の正答率が低い。
- 「データの活用」の領域では、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ること」に関する問題に課題がある。

【改善のための方策】

○「数と式」に関する指導の充実

- ・事柄が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにするために、すでに成り立つことが示された事柄をもとに、前提を変えても成り立つ場合を考え、話し合う活動を取り入れることが考えられる。その際、成り立つ事柄を予想するために、具体例をあげて調べる活動を充実することが大切である。

○「図形」に関する指導の充実

- ・事柄が成り立つ理由について数学的に説明できるようにするために、結論を導くために何がわかればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりする活動を取り入れることが大切である。

○「関数」に関する指導の充実

- ・変化の割合については、形式的に変化の割合を計算して求めることに偏らないよう、表、式、グラフで捉えるとともに、それらを相互に関連付けることで理解を深めることが大切である。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるようにするために、問題解決の際に、表、式、グラフの中から用いるものを明確にするとともに、その用い方を適切に表して問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。

○「データの活用」に関する指導の充実

- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明するために、データの収集の仕方は適切か、どの代表値が根拠としてふさわしいか、分布の形に着目しているか、傾向を読み取りやすいグラフで表せているか、グラフの目盛りなどを加工して過度に誇張してないか、分析した結果から得られる結論が妥当かなどについて検討する活動を経験することが大切である。
- ・「箱ひげ図」からデータの分布の特徴を読み取ることができるようにするために、日常の事象を題材とした問題などを取り上げ、データを収集・整理し、四分位範囲を求めたり箱ひげ図で表したりして複数の集団のデータの傾向を比較して読み取り、その結果を基に説明するという一連の活動を経験できるようにすることが大切である。

■ 中学校理科

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
8 (1)	アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	第2分野 生物の体のつくりと働き	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

該当なし

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 (3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる	第2分野 気象とその変化	H27 2 (4)
3 (3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	第1分野 化学変化と原子・分子電流とその利用	

5 (1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	第1分野 身近な物理現象	
6 (3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる	第2分野 大地の成り立ちと変化	H24 ³ (2)
7 (1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	第1分野 身の回りの物質	

【本市の傾向・課題】

- 平均正答率は、多くの設問において全国平均を上回り、特に「生命」を柱とする領域では優れた成果を残している。
- 天気の変化についての理解に課題がある。
- 力の働きについての理解に課題がある。
- 地層の重なりと過去の様子についての理解に課題がある。
- 物質の状態変化に関する知識の概念的理解に課題がある。

【改善のための方策】

○「天気の変化」に関する指導の充実

- ・自然の事物・現象を科学的に探究する上で、自分や他者の考察について根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善することが大切である。天気の変化に関する指導を行う上でも、他者の考察の根拠について、そのデータの種類や探究方法が妥当か検討する学習場面を設定することが効果的である。

○「力の働き」に関する指導の充実

- ・物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付かせるような場面や、それらの力の大きさや向きを実際に矢印で表す場面を設定することが大切である。また、教室内の風景をタブレット型端末で撮影し、その画像の中からつり合っている力を見いだして、物体に働く力を矢印で表すなどの学習も考えられる。

○「地層の重なりと過去の様子」に関わる指導の充実

- ・地層の広がり方を理解させるには、観察などに基づいてその規則性を扱い、地層のでき方を時間的な変化と関連付けることが大切である。例えば、地層モデルを活用するなどし、立体的に捉えさせ、生徒が試行錯誤しながら広がりや傾きを考える学習を設定することが必要である。

○「状態変化」に関わる指導の充実

- ・物質の状態変化に関する知識については、身近な現象で活用できる程度に概念等を理解することは大切である。指導にあたっては、状態変化に関する知識と身近な現象を関連付けて探究する学習場면을繰り返し設定することが求められる。そのような学習の積み重ねは、日常生活の場面で、理科の知識を活用して現象を説明する力の育成につながると考えられる。

(3) 無解答率について

校種ごと、教科ごとに無解答率をまとめると次の通りである。

<無解答率が全国よりも高い設問の数>

※全国よりも無解答率が高い設問の数／全設問数

全国より無解答率が高かった設問数				
小学校	R3 年度	国語	算数	理科
		8問／14問中	2問／16問中	
	R4 年度	国語	算数	理科
		8問／14問中	5問／16問中	2問／17問中
中学校	R3 年度	国語	数学	理科
		3問／14問中	2問／16問中	
	R4 年度	国語	数学	理科
		1問／14問中	0問／16問中	1問／21問中

【本市の傾向と課題】

○昨年度との比較の視点から

- ・昨年度、小学校算数で無解答率が全国平均より高かった設問数は全設問の13%であったが、今年度は31%と大幅に増加している。
- ・中学校では、国語および数学において昨年度を下回っている。

○全国との比較の視点から

- ・無解答率が全国を上回った設問が最も多いのは小学校国語であり、全設問の57%におよぶ。
- ・中学校では、数学においてすべての設問で全国の無解答率を下回り、国語および理科においても、無解答率が全国より高かった設問は1問のみであった。

○無解答率そのものの視点から

- ・小学校では、国語において無解答率が10%を越えている設問が2問あり、短答式や記述式の問題であった。算数および理科においては、無解答率が10%を越えている設問はなかった。
- ・中学校では、無解答率が10%を越えている設問が、国語および理科においてそれぞれ2問、数学において4問あり、すべて記述式の問題であった。

【改善のための方策】

- ・すべての教科において、記述式の問題で無解答率が高い傾向にある。改善に向けては、ただ正答を求めるのではなく、課題に対し、自ら考え、グループや学級で話し合いながら、解決に迫っていく機会を授業の中により多く設定していくことが大切である。また、授業のまとめ段階で、学んだことを書く活動を仕組むことも効果的であると考えられる。

令和4年8月19日「学力向上フォーラム2022」資料

「令和4年度各種学力調査の結果の概要

～調査結果と問題分析を踏まえた授業改善の方向性について～

(山梨県総合教育センター)より

授業改善の方向性について

○学力調査問題には、

- ・学習指導要領の正しい理解を促す問題
- ・子供たちに身に付けさせるべき力を示す問題
- ・経年的に課題の見られる問題

等々

国としての具体的なメッセージが込められています。

○今年度の問題には・・・

- * 感想や意見を伝え合うことを通して自分の文章のよさを見付ける。(小・国)
- * 根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書く。(中・国)
- * 目的に合うグラフから、読み取った情報を答える。(小・算)
- * 日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。
(中・数)
- * 「問題の見だし」について、気づいたことをもとに分析して解釈し、適切な問題を見いだす。(小・理)
- * 探究の過程における検討や改善を問う設問。他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して、改善したりする。(中・理)

などの問題が、出題されました。

☆ポイント

- ① 調査問題や自校の調査結果を分析し、学習指導要領で示す、各教科や単元で身に付けさせたい力を明確にし、授業づくりに生かす。
- ② 導入・活用の進むICT機器やWeb情報等を主体的・対話的で深い学びにつなげるための工夫を行い、学習ツール・学習素材として様々な学習場面に融合させる。
- ③ 校内研究・研修などを通じ、学校全体で課題や目指す方向性を共有し、組織的・継続的な取組を進める。

3 質問紙調査の本市の結果について

(1) 児童生徒質問紙調査の特徴

① 小学校【児童質問紙調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	4.8
7	自分には、よいところがあると思いますか	3.1
8	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	3.9
9	将来の夢や目標を持っていますか	7.0
10	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	3.4
11	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	5.2
12	人が困っているときは、進んで助けていますか	4.0
14	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	4.7
17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	7.1
20	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	6.3
26	読書は好きですか	4.9
27	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか	4.0
28	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事の先生は除く）	3.9
29	今住んでいる地域の行事に参加していますか	3.8
30	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	7.4
32	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※「週3回以上」で比較	3.1
38	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	3.5
40	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	5.2
41	5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか	3.8
42	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	4.8
43	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	3.3
44	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	4.8
45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	5.7
46	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	8.2
47	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	5.6
49	国語の勉強は好きですか	7.9

51	国語の授業の内容はよく分かりますか	4.1
52	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	3.3
53	算数の勉強は好きですか	3.0
55	算数の授業の内容はよく分かりますか	3.0
57	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	8.4
58	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	3.3
59	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	4.4
60	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	3.8
61	理科の勉強は好きですか	3.4
62	理科の勉強は大切だと思いますか	6.2
64	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	11.2
65	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	5.4
68	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	5.2
69	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	7.0
国1	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか ※「全ての問題で最後まで書こうと努力した」で比較	4.7
算1	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか ※「全ての問題で最後まで書こうと努力した」で比較	5.3
理1	今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか ※「全ての問題で最後まで書こうと努力した」で比較	5.4

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
6	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く） ※「3時間以上」で比較	-3.8
21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※「2時間以上」で比較	-3.1
22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※「3時間以上」で比較	-3.0
34	学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか ※「週3回以上」で比較	-8.0
35	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか ※「週3回以上」で比較	-8.4
国2	解答時間は十分でしたか（45分）	-9.3

②中学校【生徒質問紙調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
8	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	3.8
11	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	4.1
17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	3.7
21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※「2時間以上」で比較	3.4
22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ※「3時間以上」で比較	5.1
26	読書は好きですか	3.3
27	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか	6.5
29	今住んでいる地域の行事に参加していますか	8.1
30	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	5.9
32	1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※「週3回以上」で比較	12.9
33	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など） ※「週3回以上」で比較	6.7
38	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	7.2
40	1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	5.0
41	1, 2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか	5.8
42	1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	5.8
45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	8.7
46	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	11.3
47	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	9.8
48	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	3.6
57	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	5.5
60	数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	4.8
61	理科の勉強は好きですか	12.5
62	理科の勉強は大切だと思いますか	4.5
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	8.1

64	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	10.0
65	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	5.5
67	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	4.8
68	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	3.9
69	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	4.3
国1	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか ※「全ての問題で最後まで書こうと努力した」で比較	6.2
国2	解答時間は十分でしたか（50分）	3.5
数1	今回の数学の問題では、言葉や数、式を使って、説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか ※「全ての問題で最後まで書こうと努力した」で比較	8.0
理1	今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか ※「全ての問題で最後まで書こうと努力した」で比較	6.9

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
6	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く） ※「3時間以上」で比較	-4.2
35	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか ※「週3回以上」で比較	-5.0
数2	解答時間は十分でしたか（50分）	-5.0

③児童生徒質問紙調査について

今年度、児童生徒質問紙調査の設問数は、小学校、中学校ともに75であった（昨年度は、小学校、中学校ともに69）。小学校、中学校ともに約90%の設問で、肯定的な回答が全国平均を上回っている。

<小学校>

- 「国語の勉強は好きですか」「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」「理科の勉強は大切だと思いますか」「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。学習に関する興味関心を問う質問は、すべての教科のすべての項目において肯定的な回答がいずれも全国平均を上回っている。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」についても、肯定的な回答が全国平均を3ポイント以上上回っており、充実した学級活動が展開されている学級が多いことがうかがえる。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることができますか」「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらっ

たりすることがあります（習い事の先生は除く）」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」についても、肯定的な回答が全国平均を3ポイント以上上回っており、地域や社会に関わる活動が比較的良好に行われていることがうかがえる。

- 「将来の夢や目標を持っていますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」についても、肯定的な回答が全国平均を3ポイント以上上回っており、自己有用感は比較的高いことがうかがえる。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。しかし、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」については、前者は2時間以上、後者は3時間以上の回答が全国平均を3ポイント以上下回っており、自分で計画を立てて家庭学習に取り組む児童は多いものの、学習時間は少ないという傾向が見える。
- 「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」について、「週3回以上」の回答が全国平均を大きく下回っている。また「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）」についても、「週3回以上」の回答が全国平均をやや下回っている。しかし、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」については、「週3回以上」の回答が全国平均を3ポイント以上上回っていることから、授業でのICT機器の利用頻度は少なくないものの、意見交換、まとめ・発表、調べ学習などでの利用は少なく、おそらくドリル学習のようなものでの利用にとどまっていると考えられる。

<中学校>

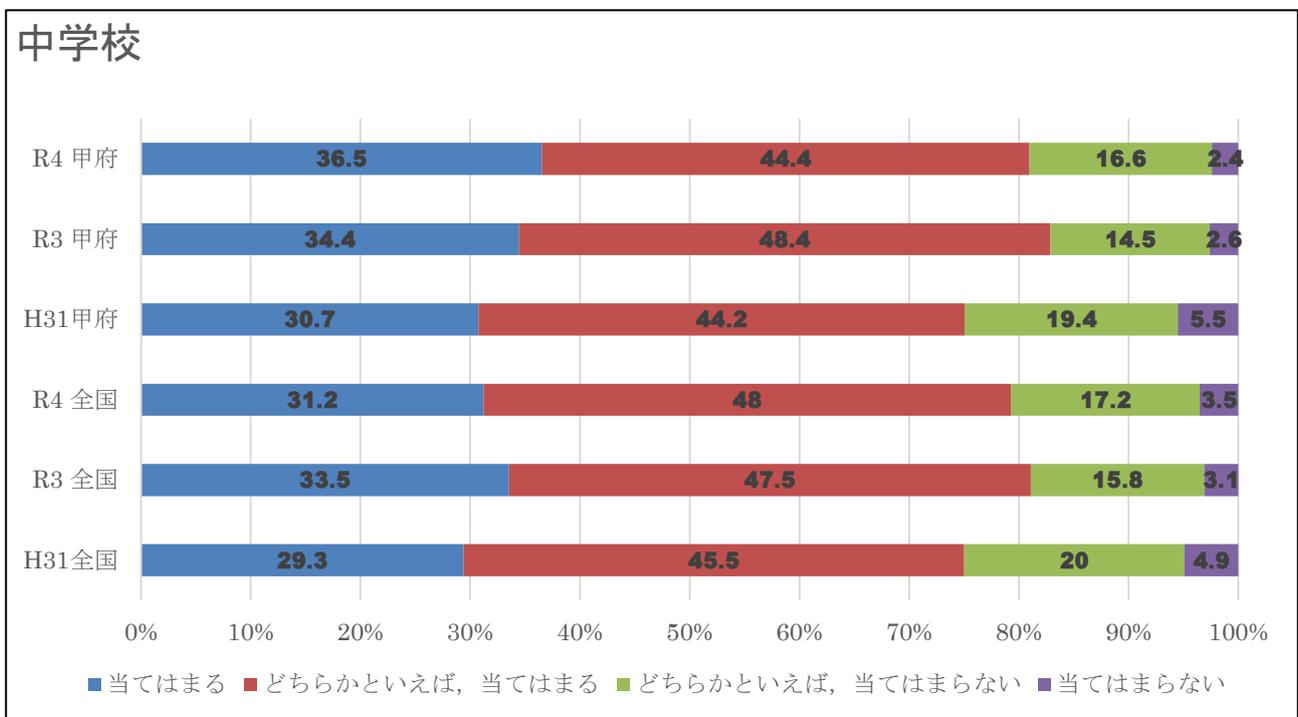
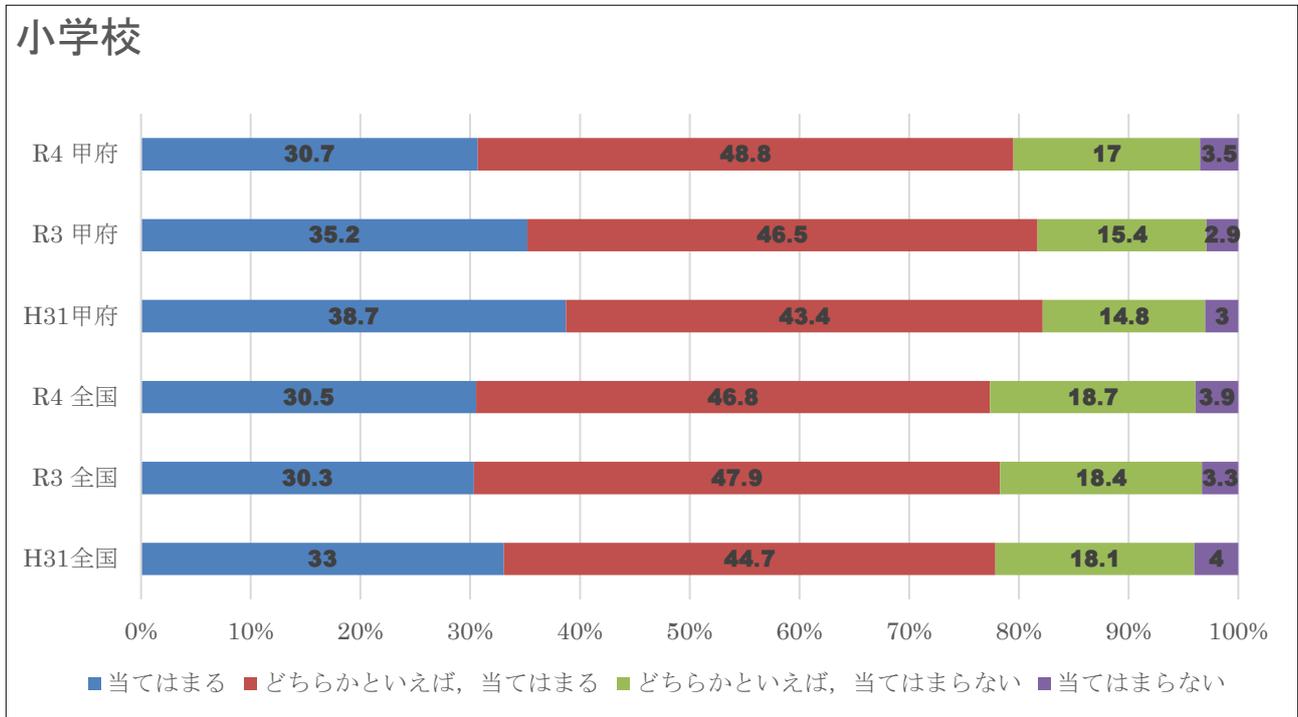
- 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）」について、「週3回以上」の回答が全国平均を大きく上回っている。しかし、「学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」については、「週3回以上」の回答が全国平均を下回っていることから、中学校では、調べ学習の際のICT機器の利用頻度は高いものの、意見交換、まとめ・発表などでの利用は少ないことがうかがえる。
- 「理科の勉強は好きですか」「理科の授業の内容はよく分かりますか」「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。理科の学習に関する興味関心を問う質問は、他の項目についてもすべて肯定的な回答が全国平均を上回っている。
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活

動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。総合的な学習の時間や学級活動において、しっかりと授業を展開している学校や学級が多いことがうかがえる。

- 「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」についても、肯定的な回答が全国を3ポイント以上上回っており、中学生も地域や社会に関わる活動を比較的好く行っていることがうかがえる。
- すべての教科において「今回の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」について、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」の回答が全国平均を大きく上回っている。書くことについては、抵抗感の少ない生徒が多く、学校におけるこれまでの指導の成果であると考えられる。
- 「1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」について、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。また、「1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」「1, 2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」「1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」についても、肯定的な回答が全国平均を上回っており、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組が、着実に行われていることがうかがえる。

☆児童生徒質問紙のうち「主体的・対話的で深い学び」に関わる資料

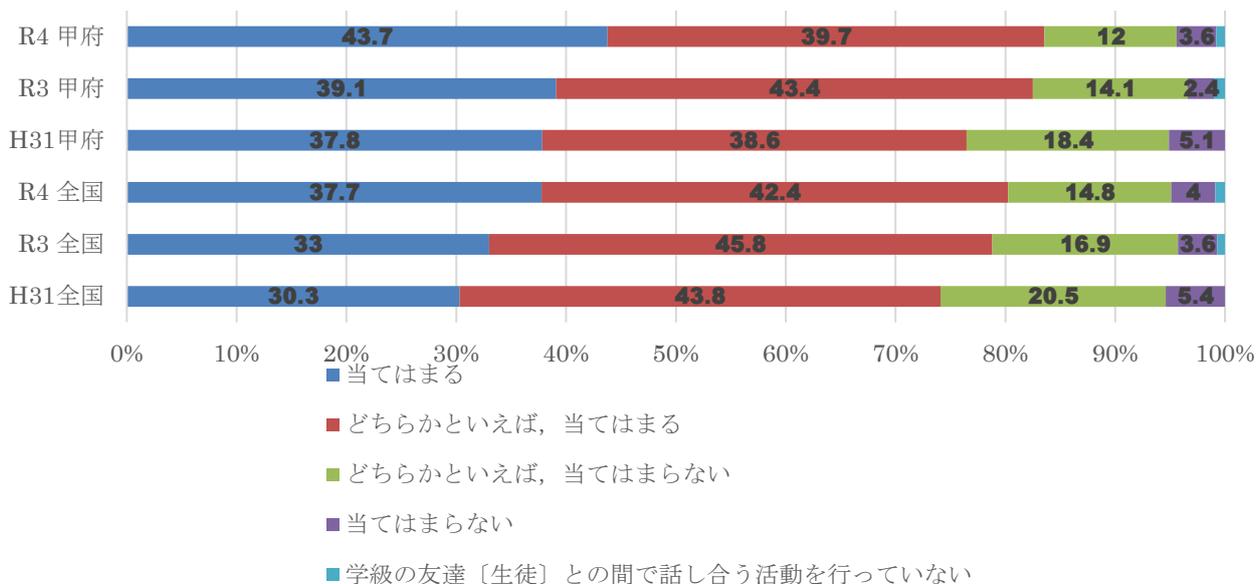
授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



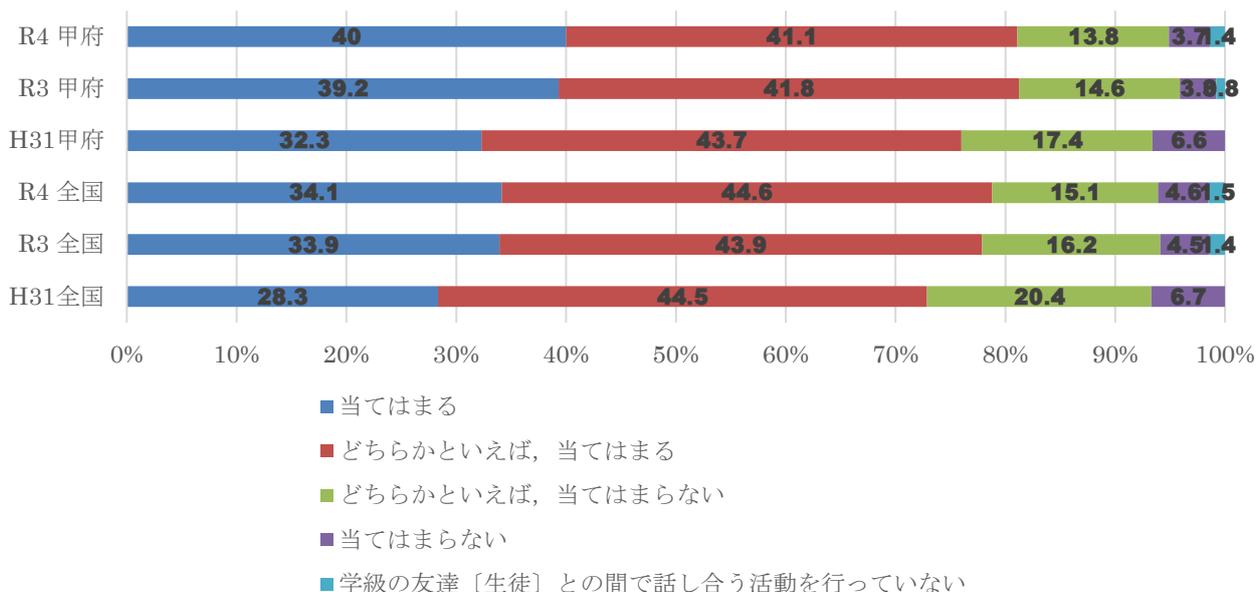
学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

※H31は、「学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を行っていない」の選択肢はなかったため、その回答をした児童生徒はいない。

小学校



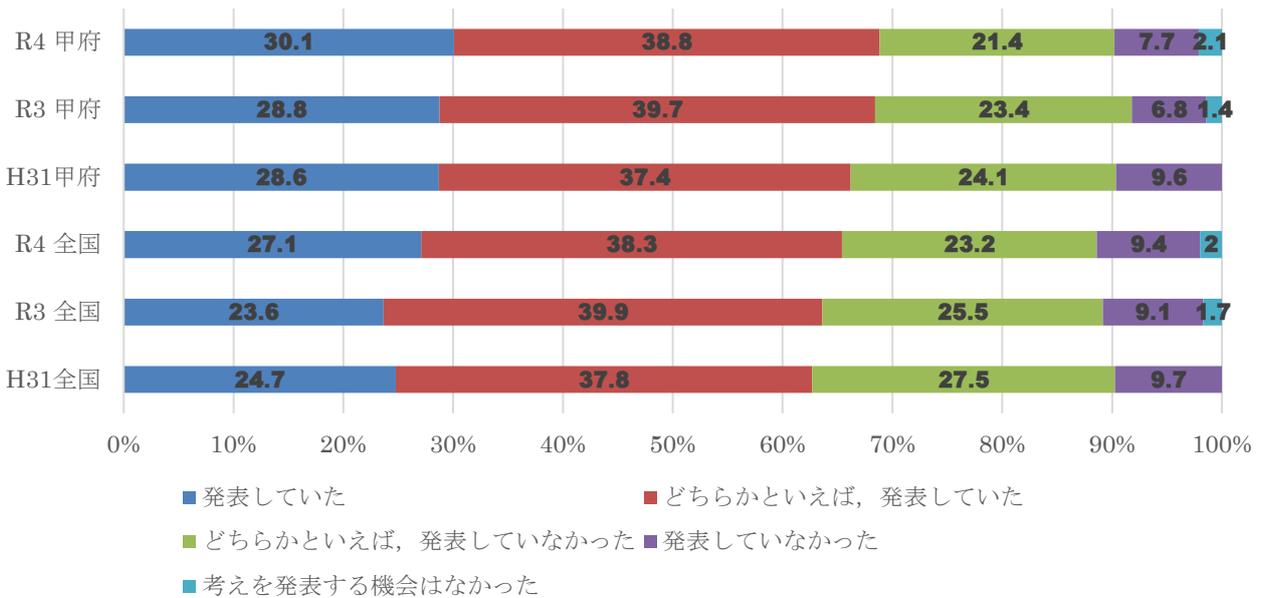
中学校



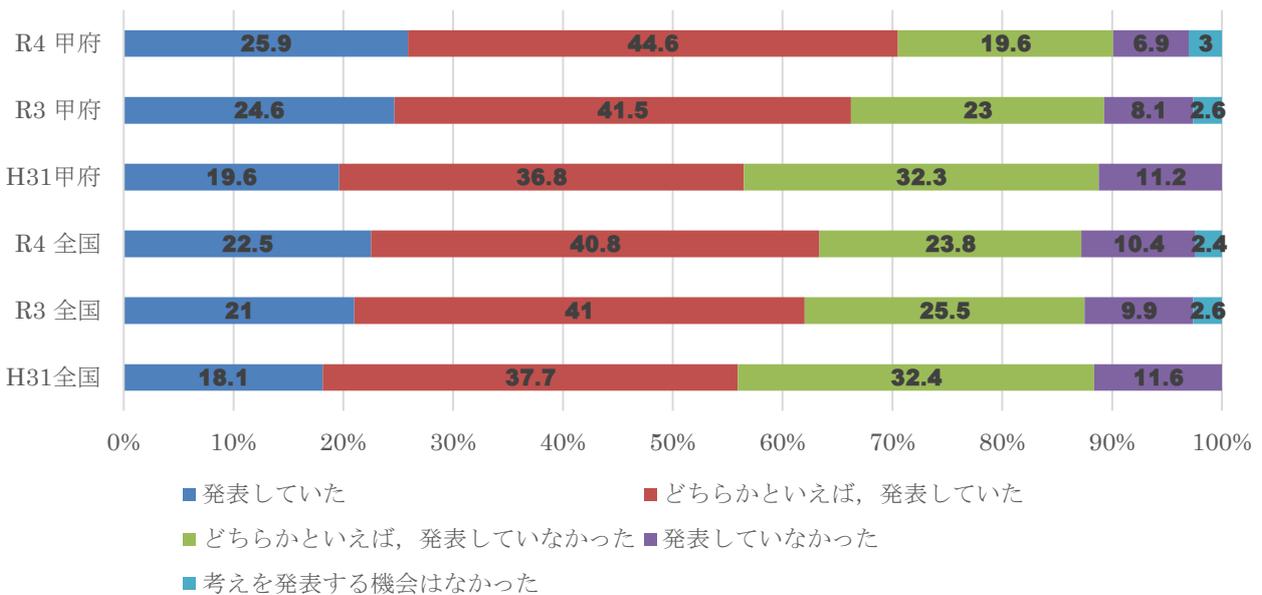
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

※H31は、「考えを発表する機会はなかった」の選択肢はなかったため、その回答をした児童生徒はいない。

小学校

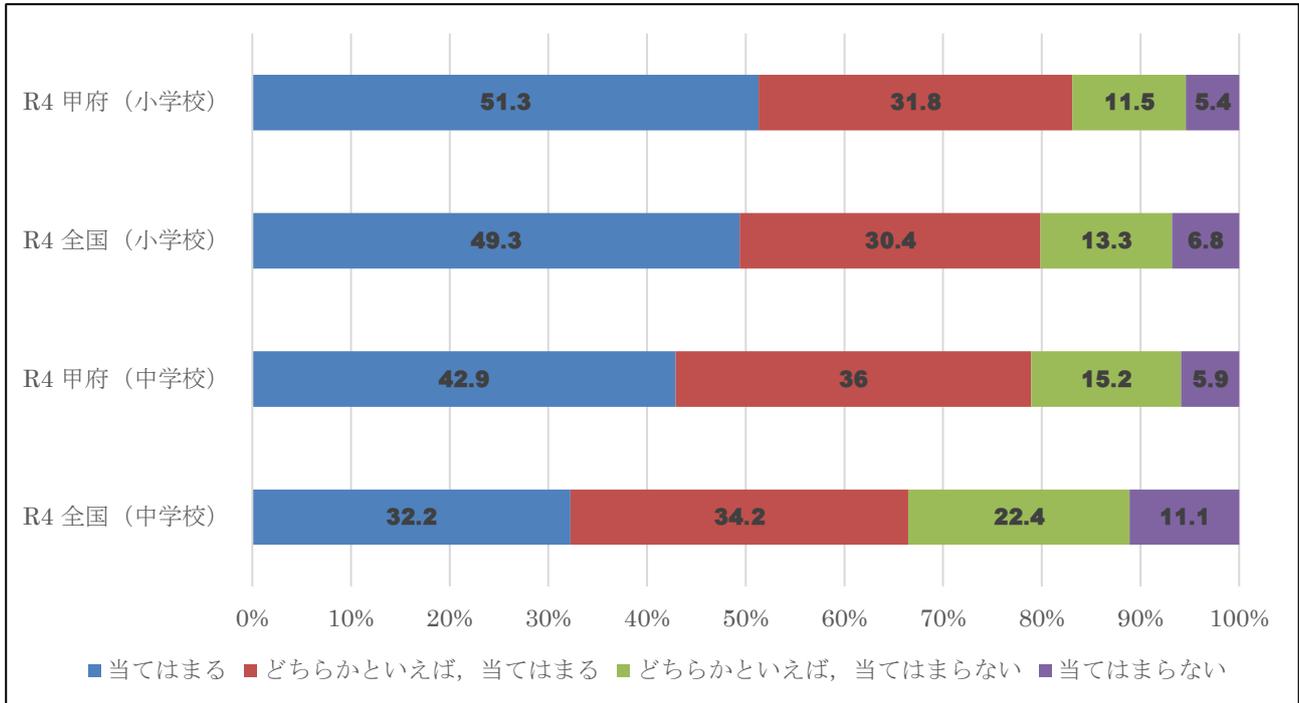


中学校

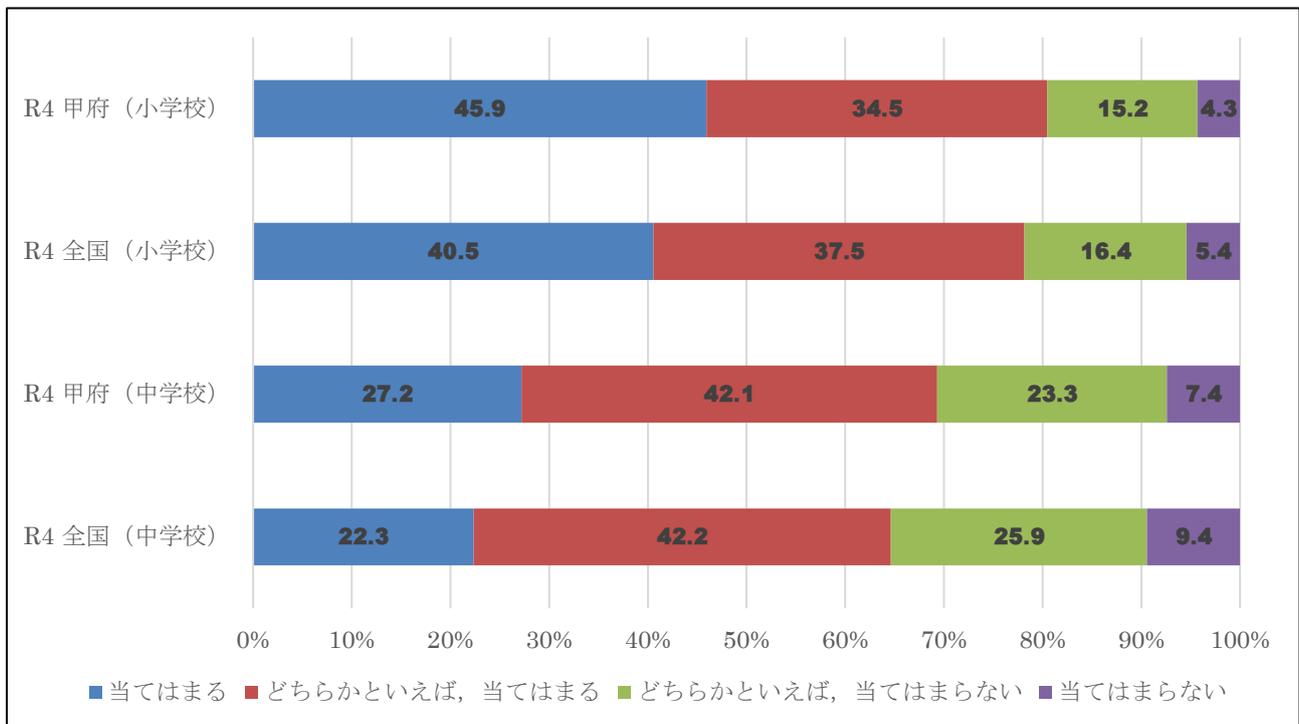


☆児童生徒質問紙のうち「理科」に関わる資料

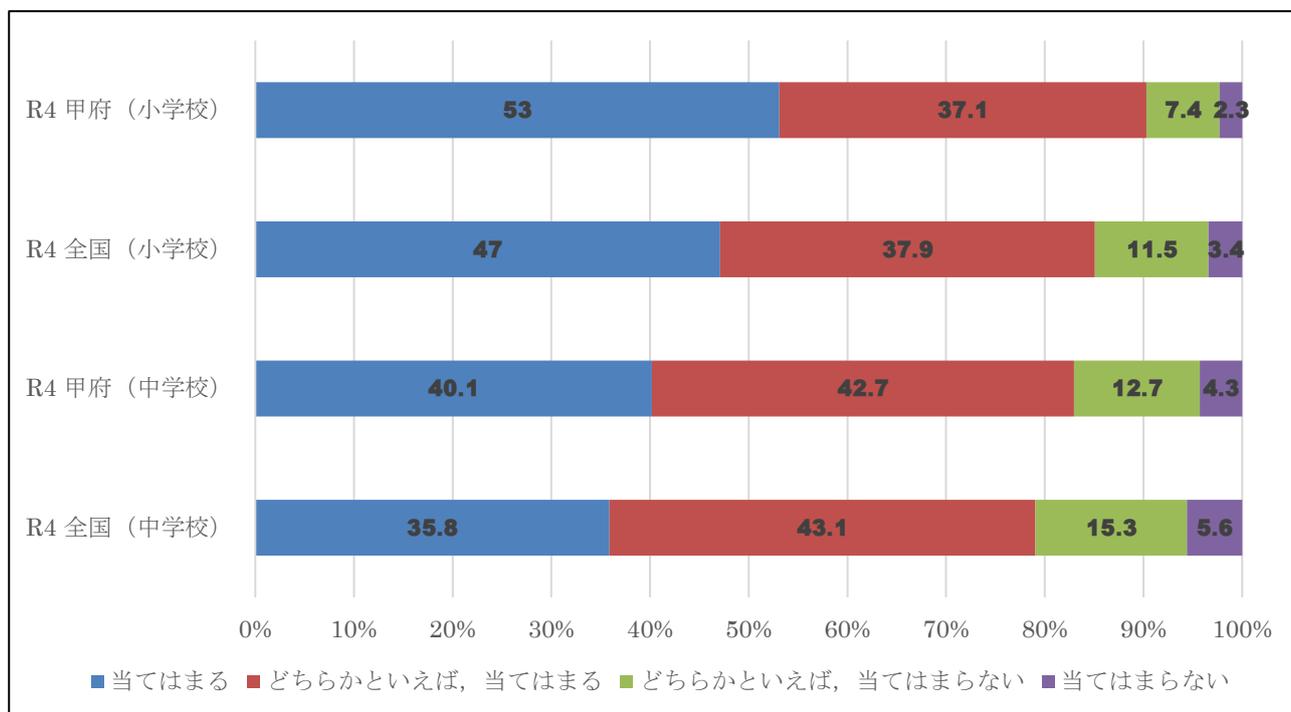
理科の勉強は好きですか。



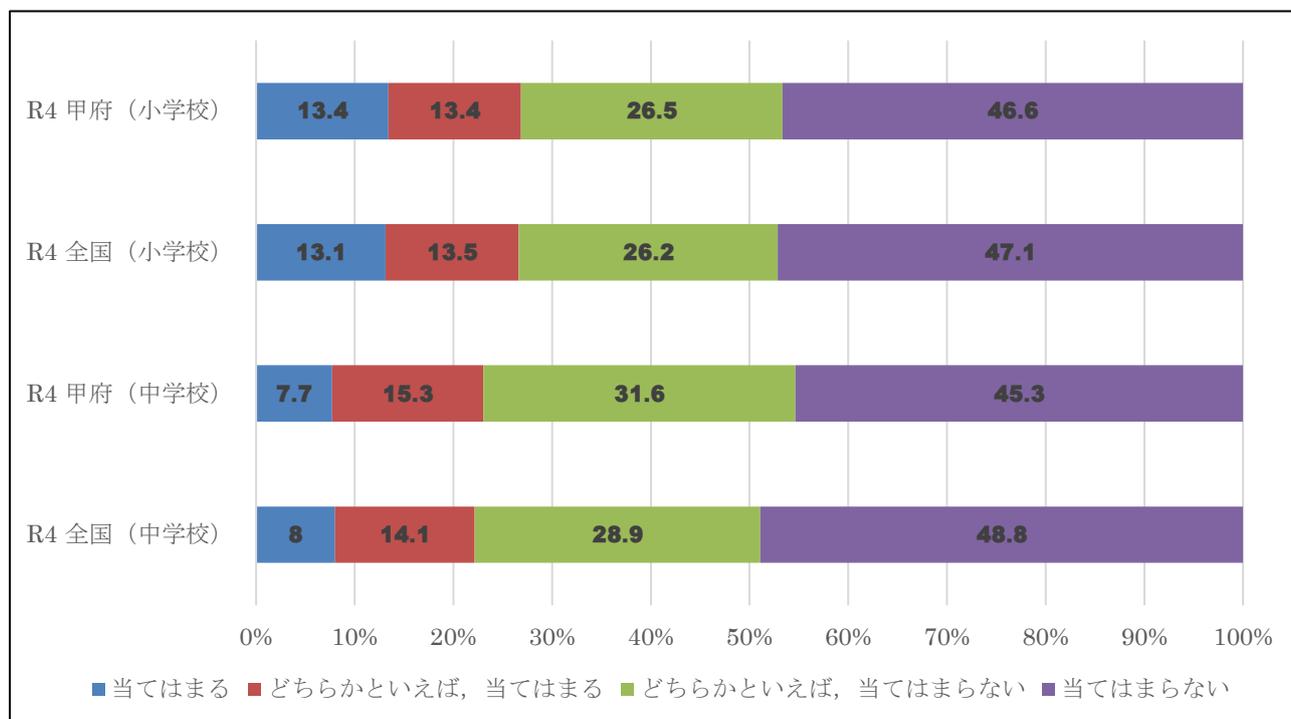
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。



理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか〔観察や実験の結果をもとに考察していますか〕。

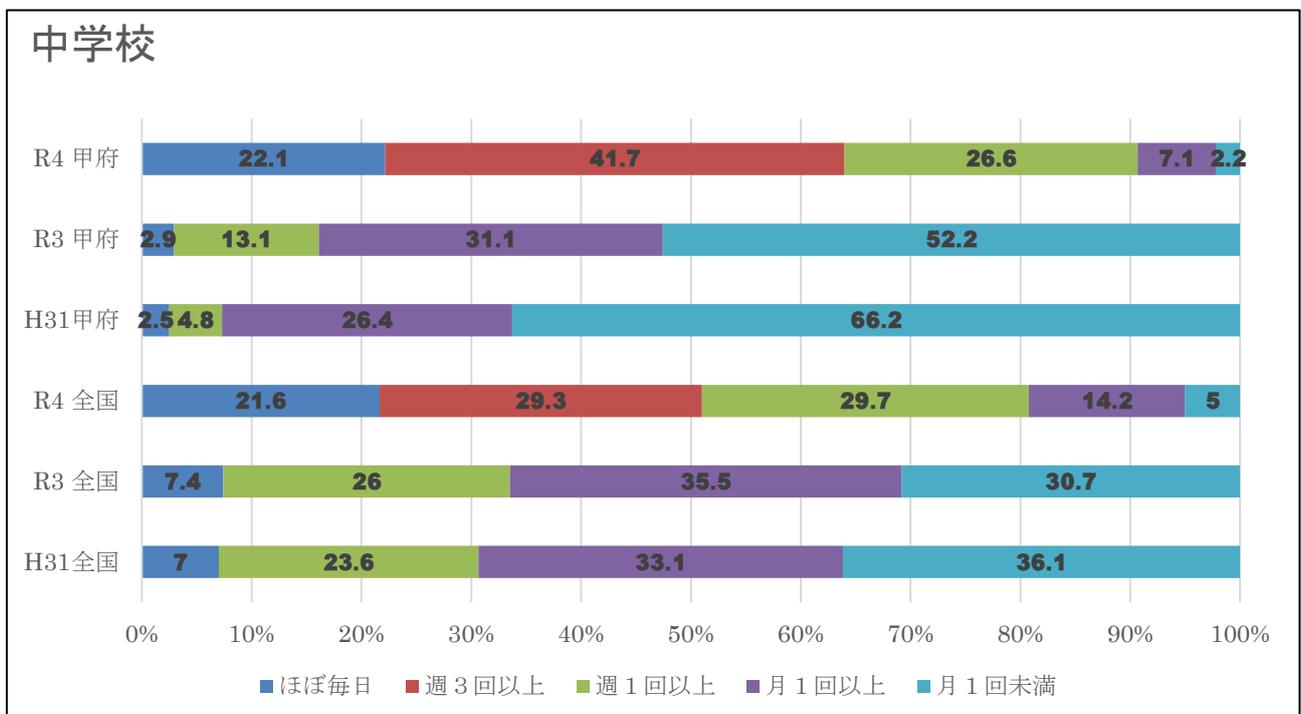
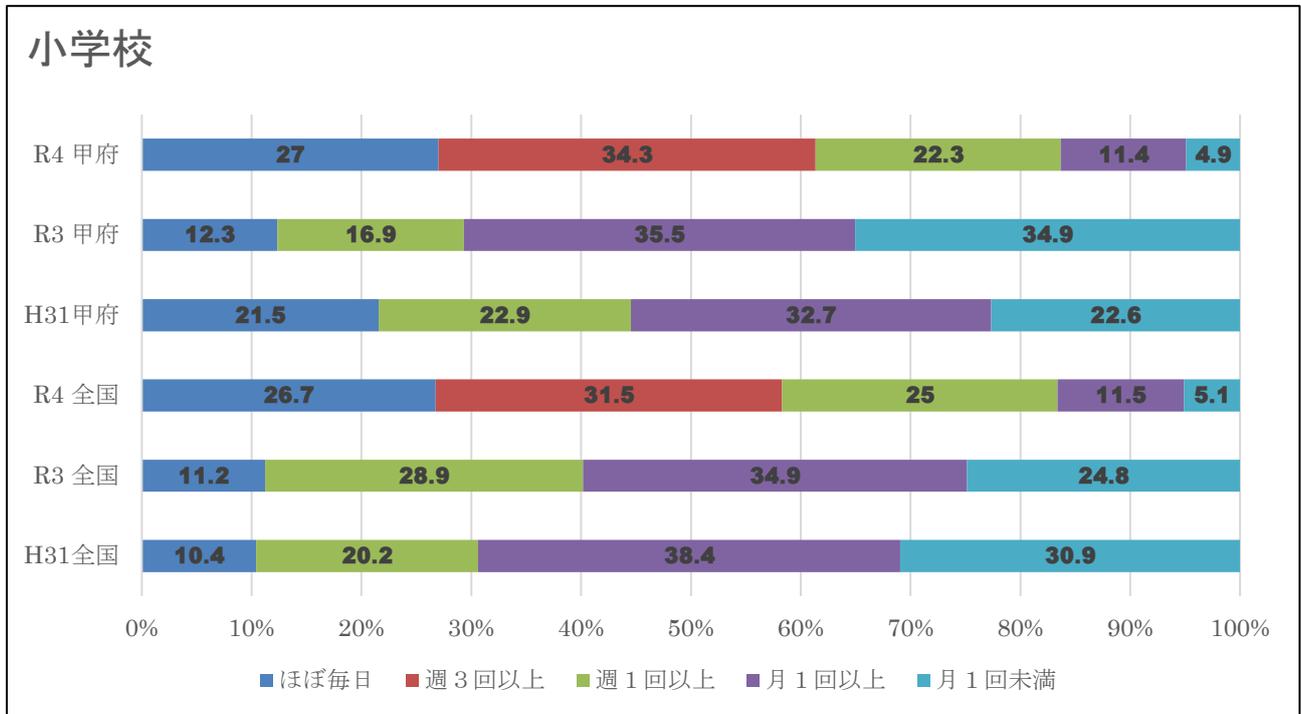


将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか。



☆児童生徒質問紙のうち「ICT」に関わる資料

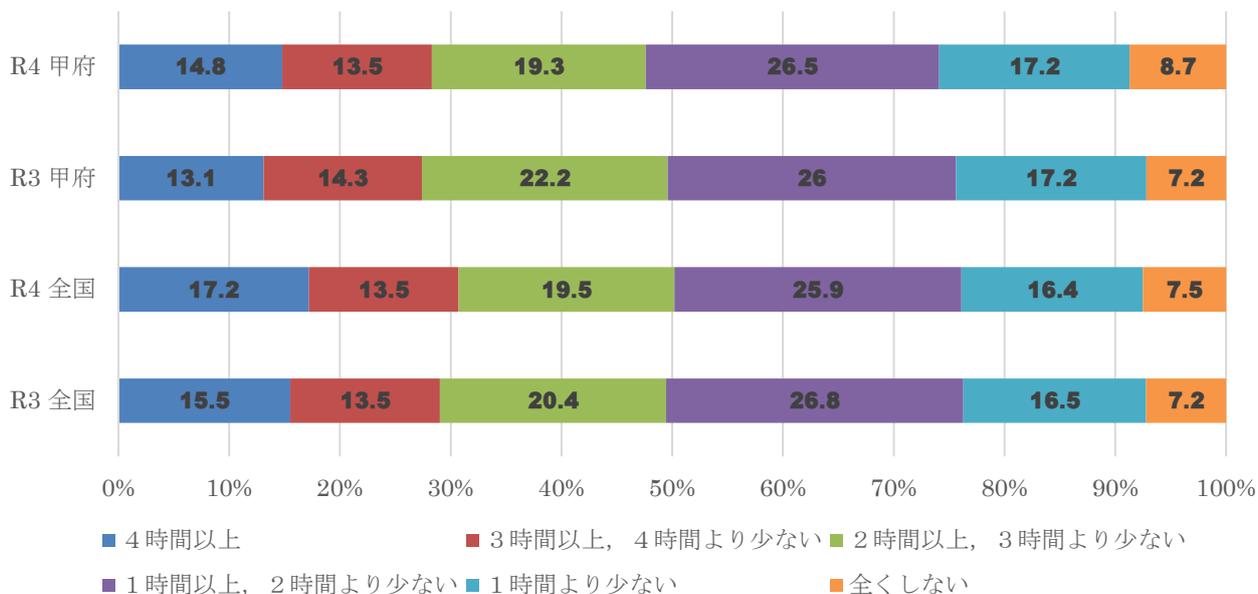
前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどの機器を、どの程度使用しましたか。
 ※R3・H31は、「週3回以上」の選択肢はなかったため、その回答をした児童生徒はいない。



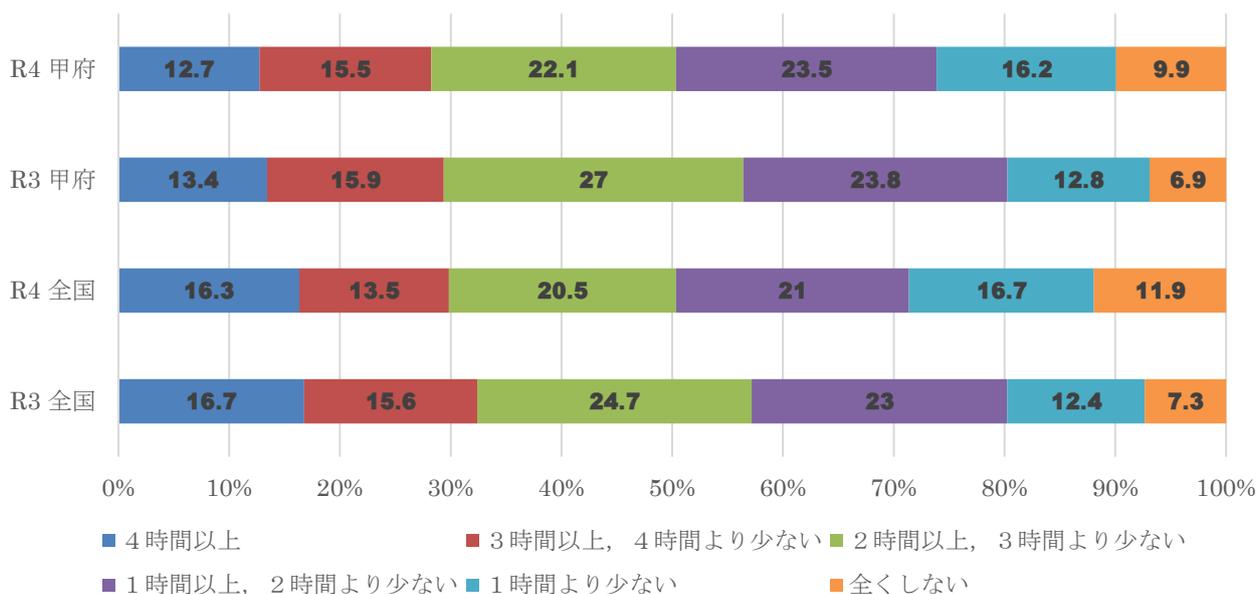
☆児童生徒質問紙のうち「ゲーム・SNS・動画視聴」に関わる資料

普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

小学校

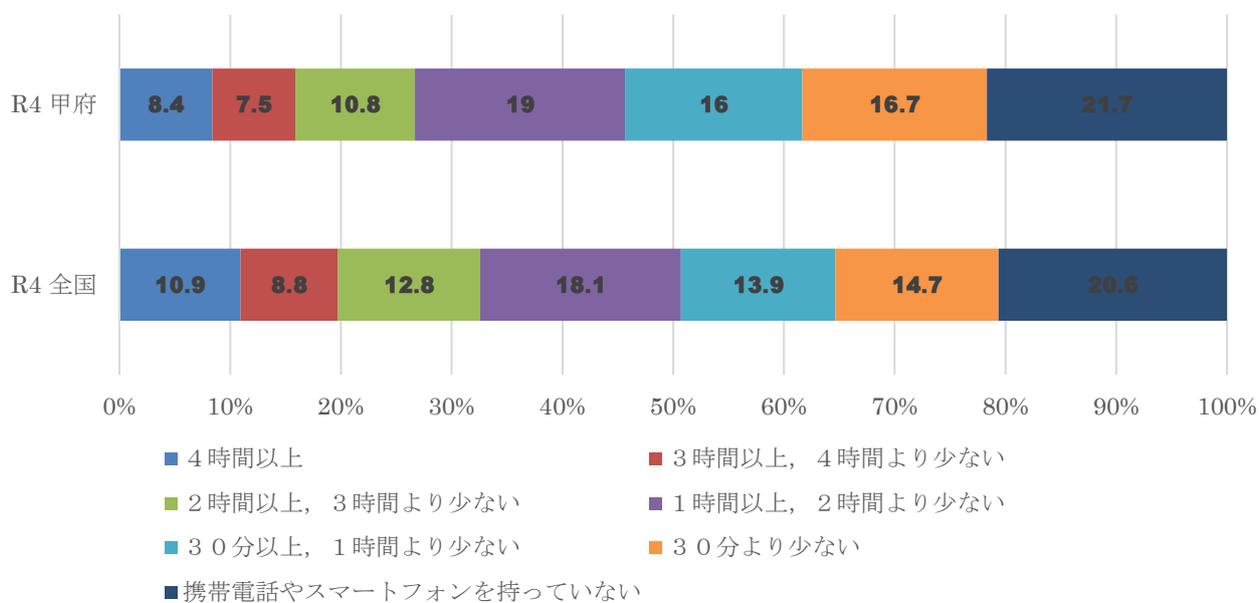


中学校

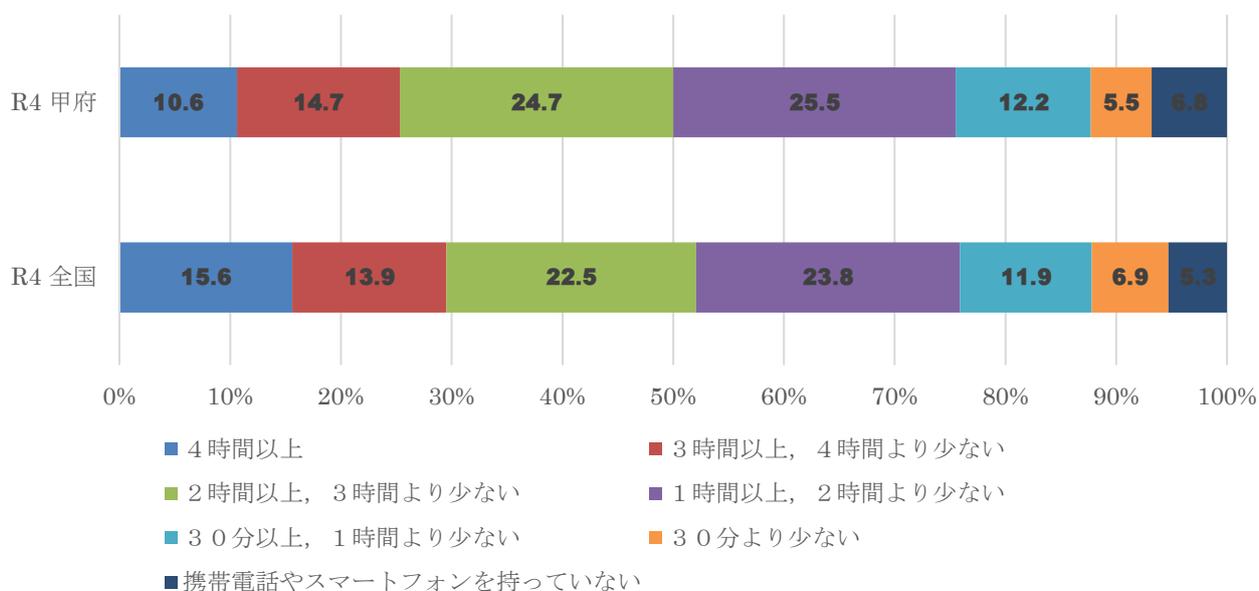


普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）。

小学校

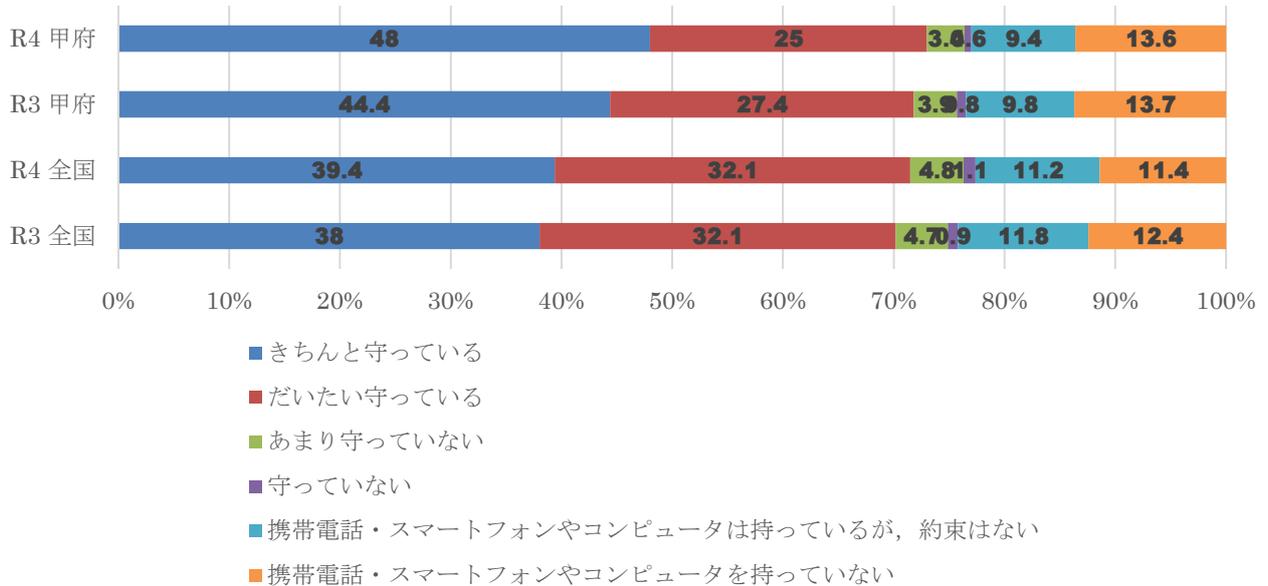


中学校

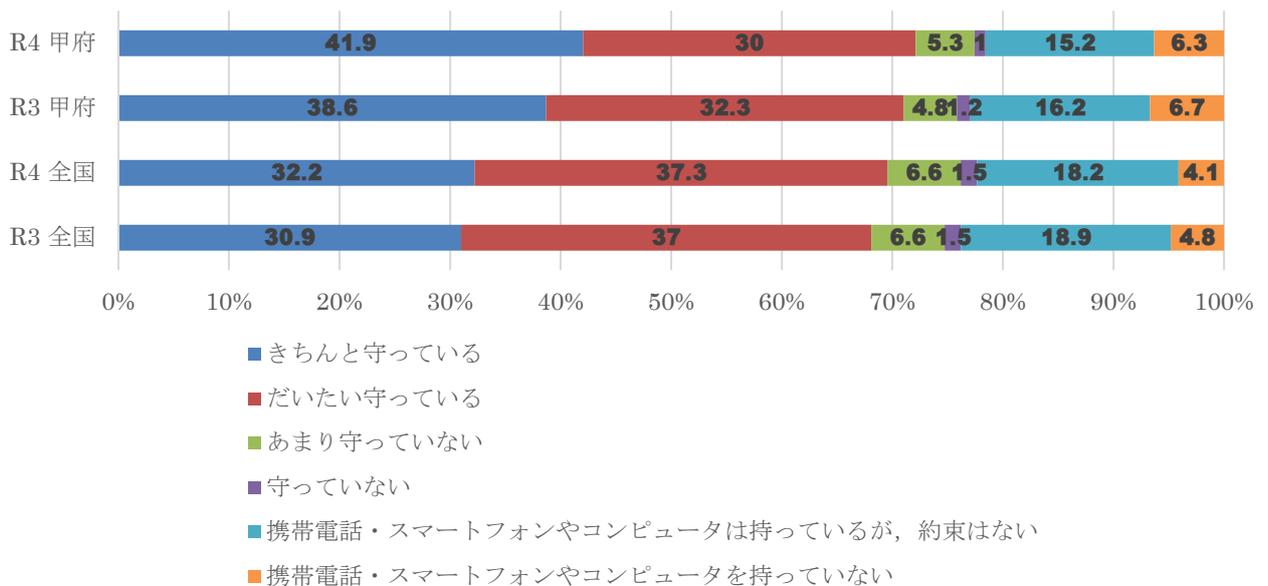


携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

小学校



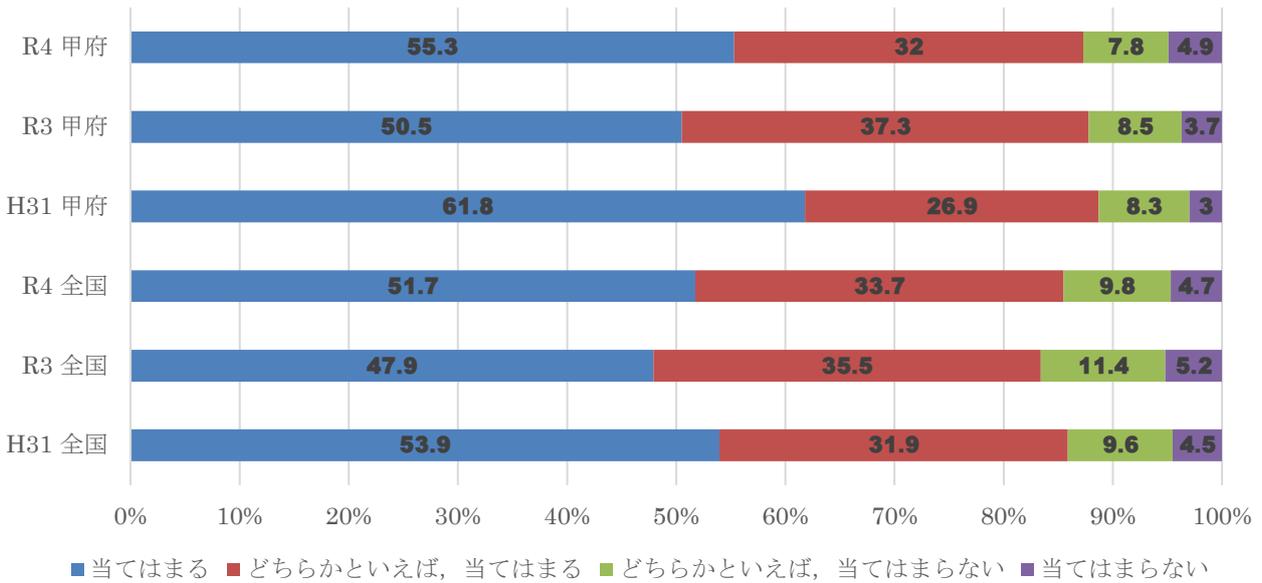
中学校



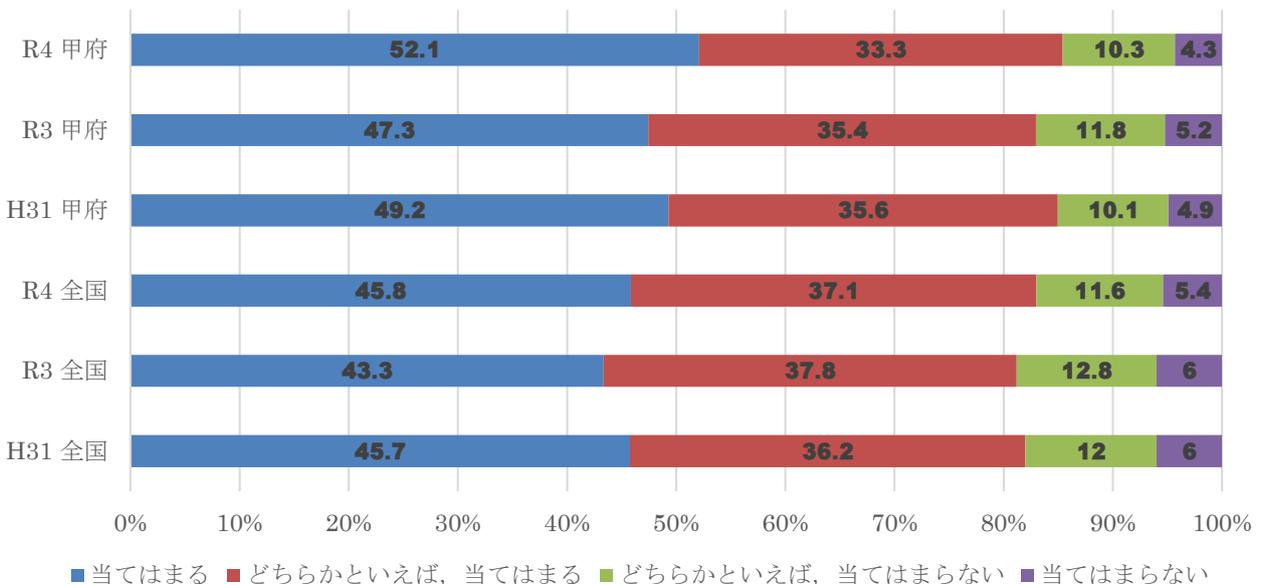
☆児童生徒質問紙のうち「その他」の資料

学校に行くのは楽しいと思いますか。

小学校

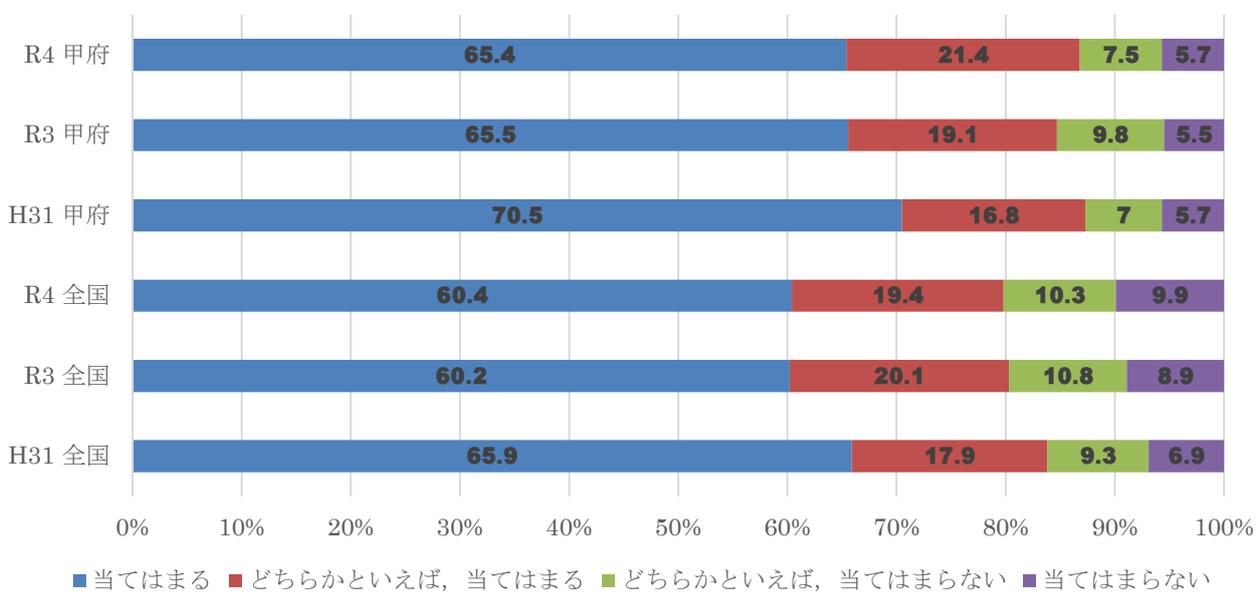


中学校

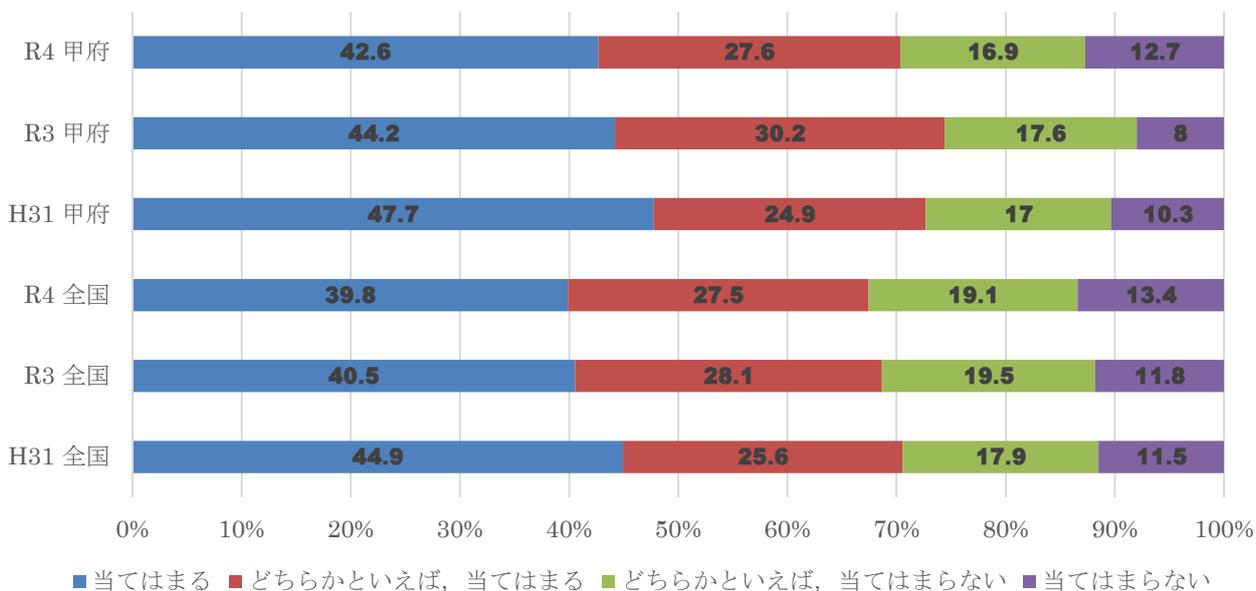


将来の夢や目標を持っていますか。

小学校

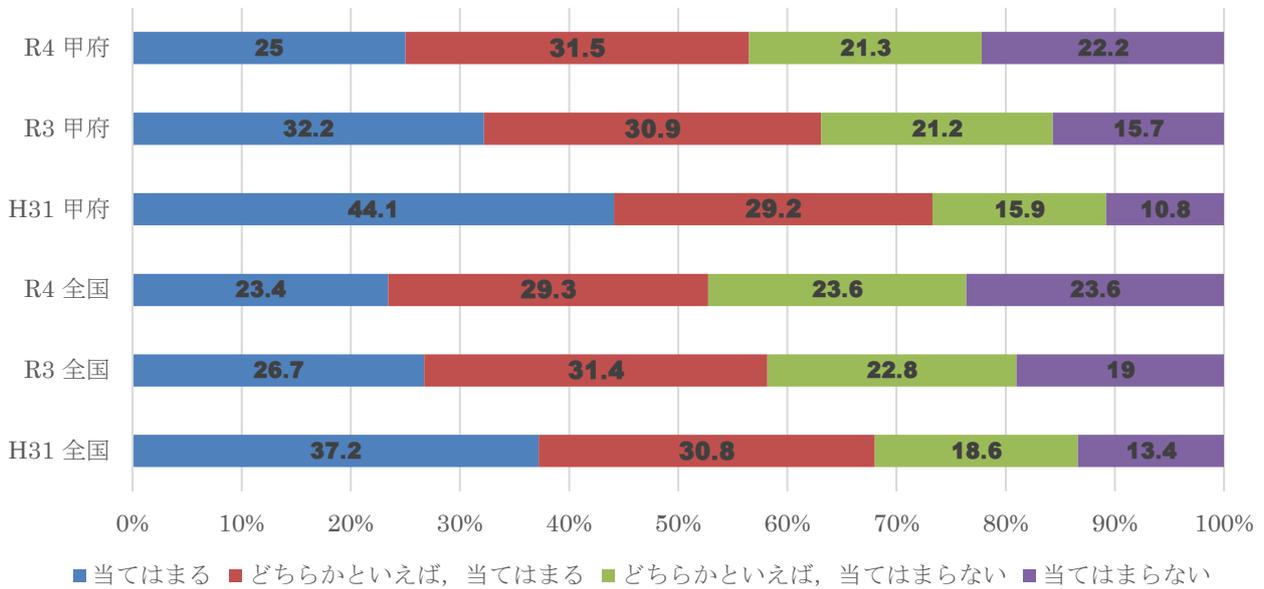


中学校

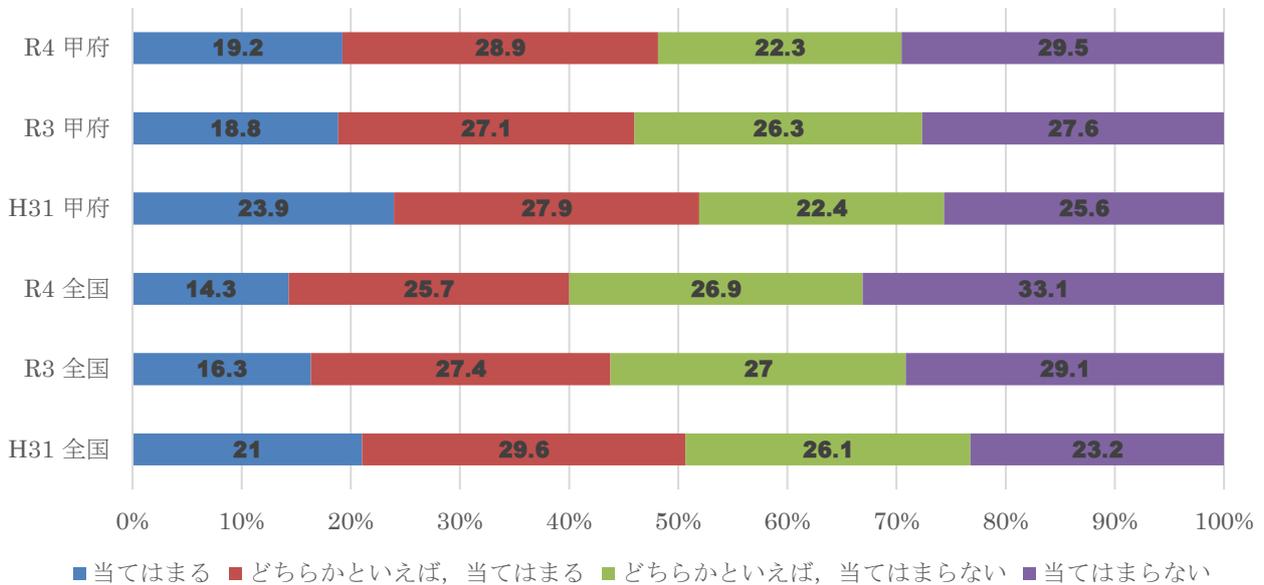


今住んでいる地域の行事に参加していますか。

小学校



中学校



(2) 学校質問紙調査の特徴

△令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校〔小学校〕と成果や課題を共有しましたか。

(全国平均：全国平均との比較)

〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	56.5%	(44.5% : +12.0)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	41.6%	(41.7% : -0.1)

△児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか。

〔小学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、している」	78.2%	(83.6% : -5.4)
〔中学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、している」	100.0%	(78.6% : +21.4)

△調査対象学年の児童〔生徒〕の保護者に対して、前年度までに、児童〔生徒〕の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。

〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	91.3%	(92.4% : -1.1)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	100.0%	(86.7% : +13.3)

▼調査対象学年の児童〔生徒〕が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。

〔小学校〕	「ほぼ毎日」「週3回以上」	21.7%	(39.9% : -18.2)
〔中学校〕	「ほぼ毎日」「週3回以上」	41.6%	(41.7% : -0.1)

▼前年度までに、近隣等の中学校〔小学校〕と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか。

〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	26.0%	(48.2% : -22.2)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	16.6%	(58.0% : -41.4)

▼保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか。

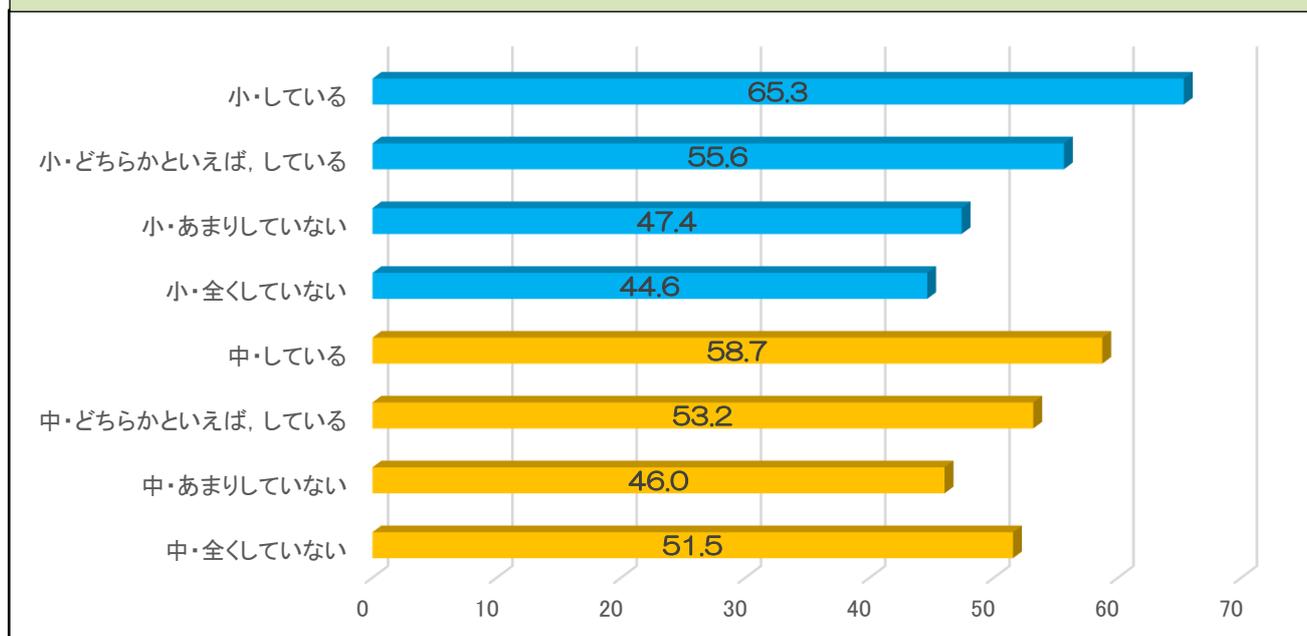
〔小学校〕	「よく参加している」「参加している」	95.7%	(94.6% : +1.1)
〔中学校〕	「よく参加している」「参加している」	41.7%	(77.5% : -35.8)

資料 1 平均正答率と質問紙調査の相関関係

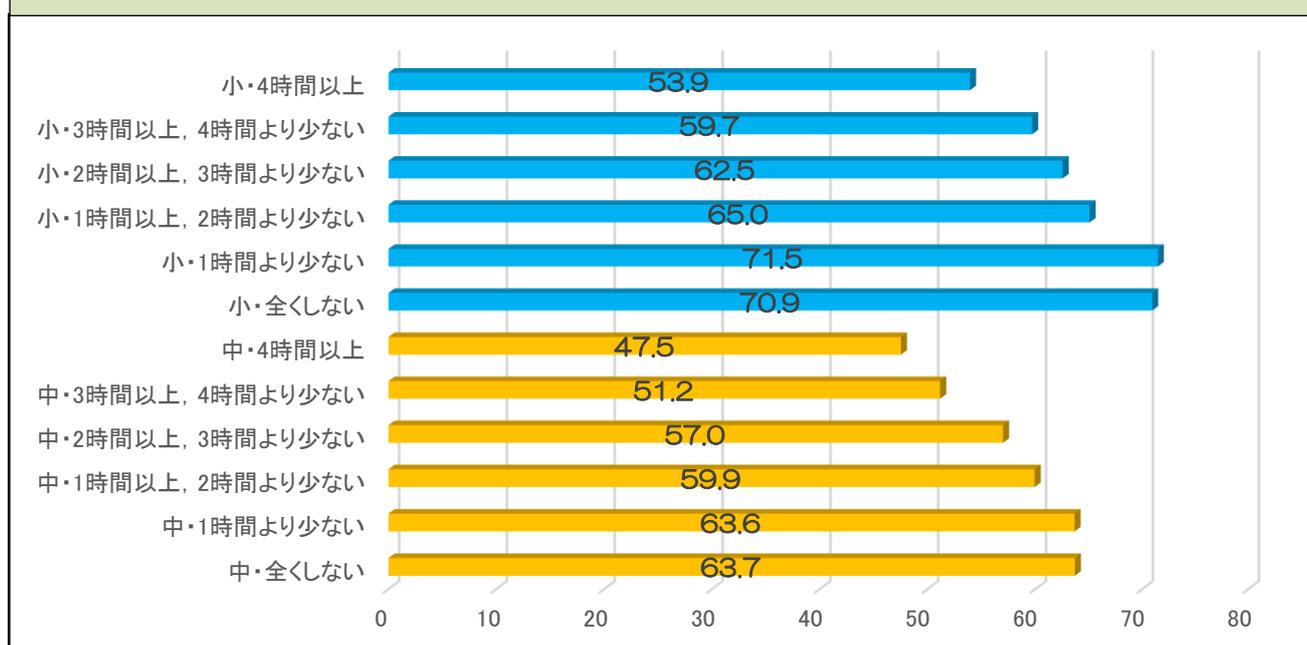
このグラフにおける「合計平均」は、平均正答率の和（国語、算数・数学、理科の平均正答率の合計を3でわったもの。棒グラフが長いほど、全国学力・学習状況調査の結果（平均正答率）が高い。

<基本的な生活習慣等>

朝食を毎日食べていますか。

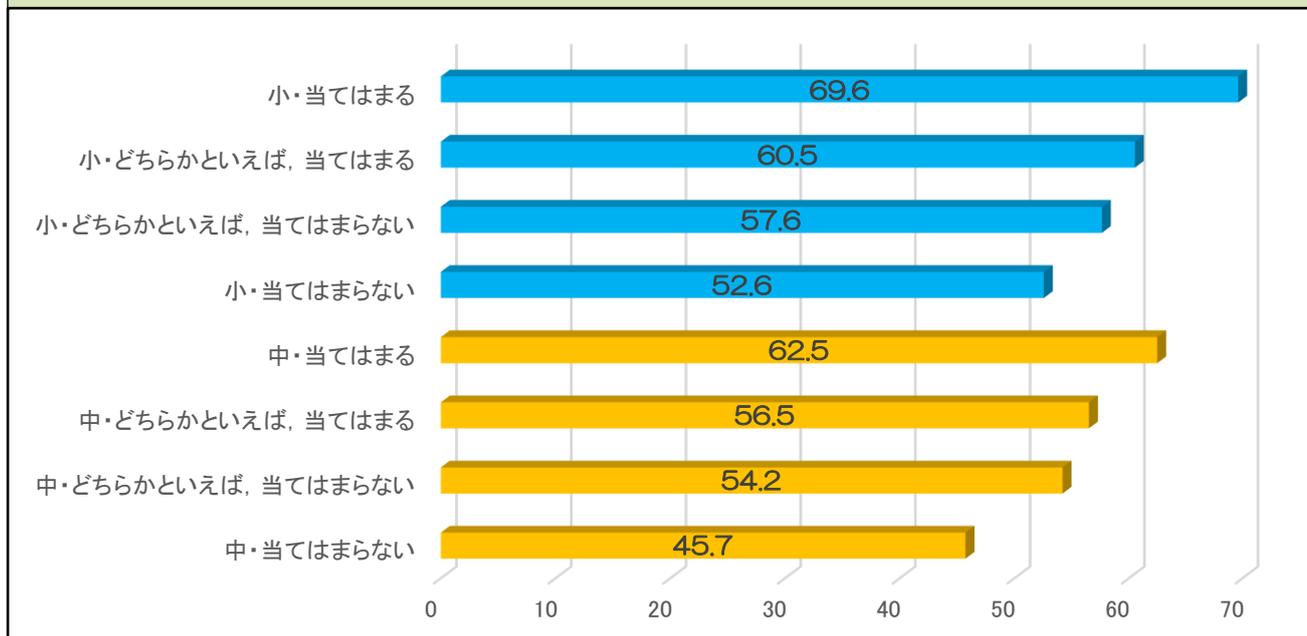


普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。

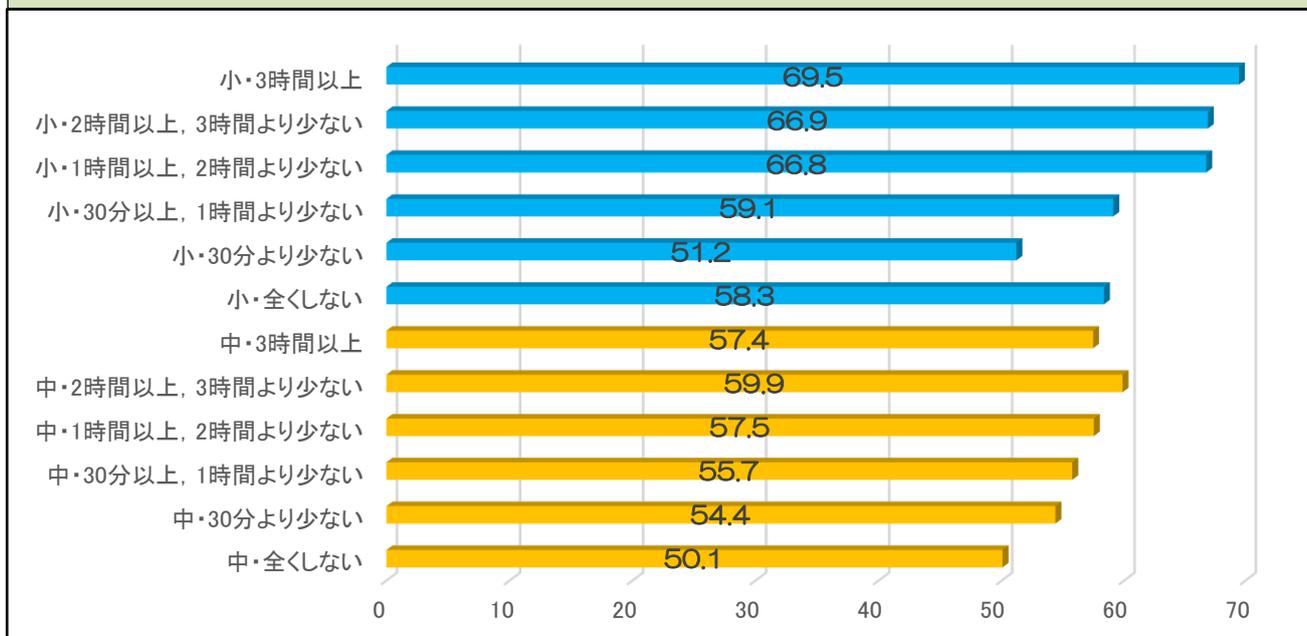


<学習習慣, 学習環境等>

読書は好きですか。

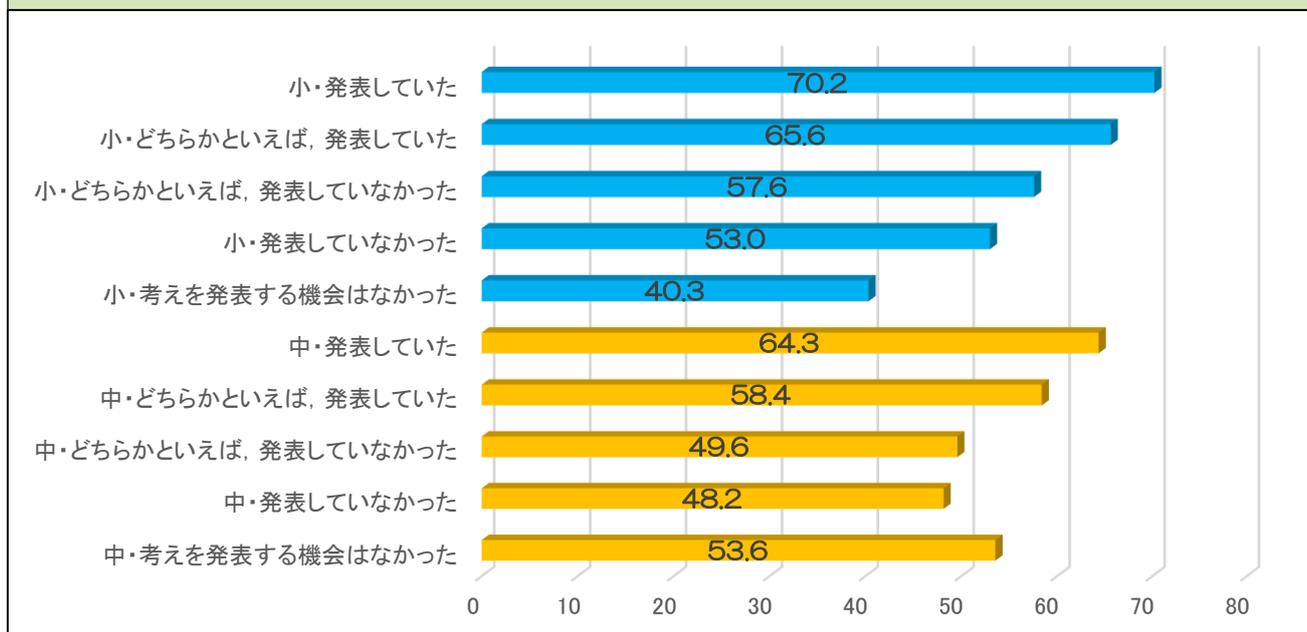


学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

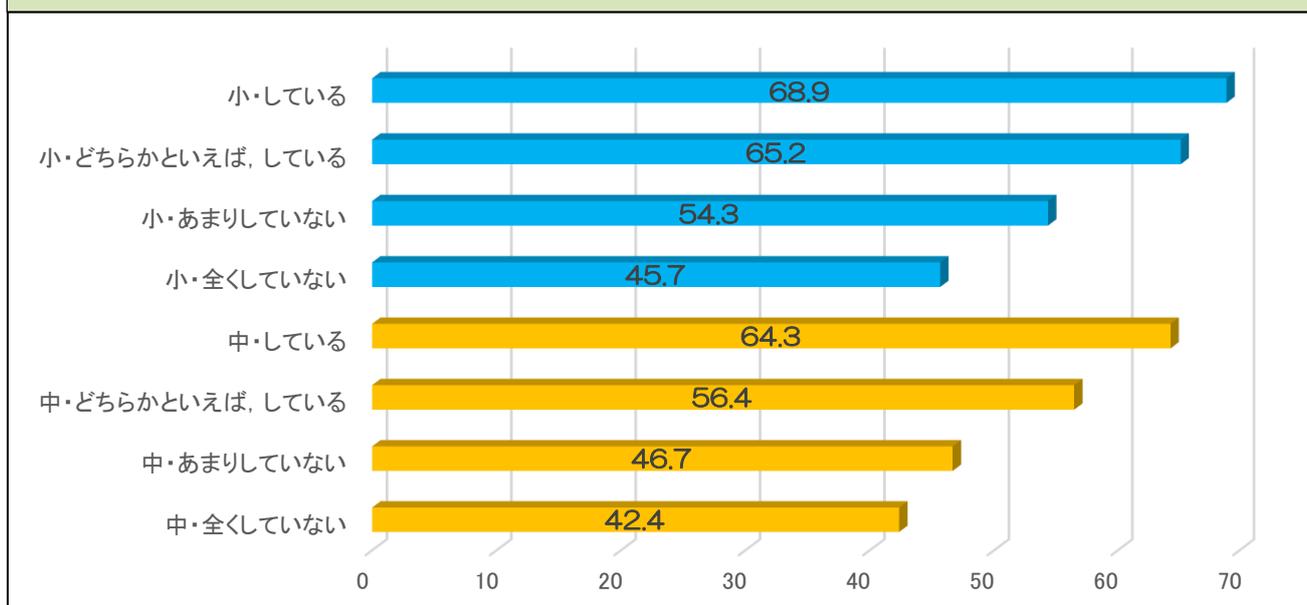


＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況＞

前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

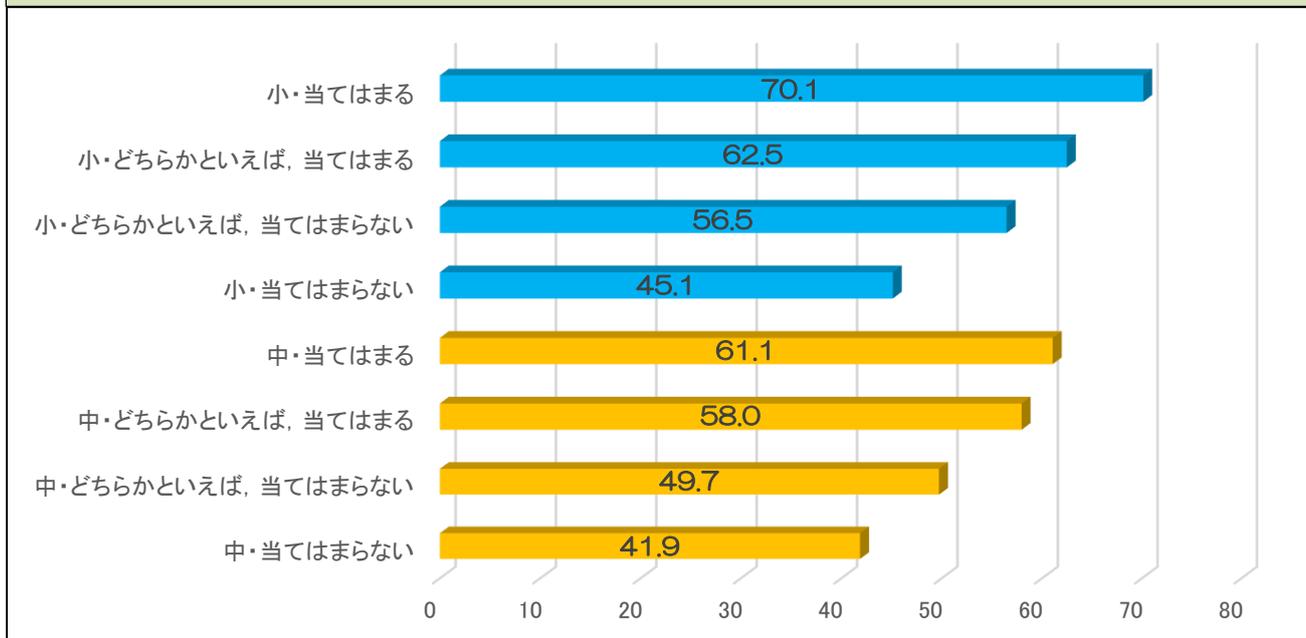


昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

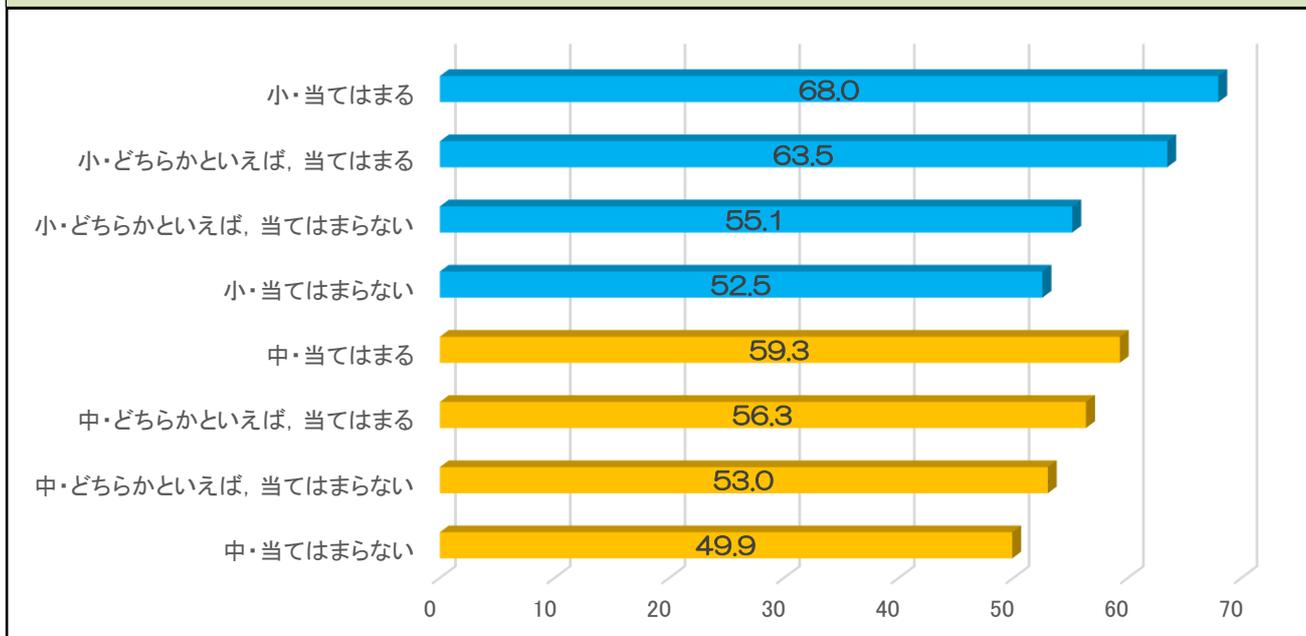


<総合的な学習の時間、学級活動>

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



資料2 令和4年度甲府市学校教育指導重点に関わって

令和4年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙から、甲府市学校教育指導重点との関わりについて分析した。

〈肯定的な回答について〉

* 国・県両方を上回っている（または同じ）…◎

* 国もしくは県を上回っている（または同じ）…○

* 国・県両方を下回っている …△

1 重点項目に関わる設問の回答状況

①「生きる力」を育む教育課程の編成

特別支援教育への理解・特性に応じた指導の工夫 〈学校質問紙 小No.68 中No.66〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎
近隣の小中学校との教育課程に関する共通の取組 〈学校質問紙 小No.69 中No.67〉	小学校：国・県を下回る	△
	中学校：国・県を下回る	△
職場体験・職場見学の実施の有無・実施日数 〈学校質問紙 小No.72 中No.70〉	小学校：国・県を下回る	△
	中学校：国・県を下回る	△

②確かな学力の育成

平日の読書時間（1時間以上） 〈児童生徒質問紙 No.23〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎
学級活動における一人一人の児童生徒が意思決定できる指導の工夫 〈学校質問紙 No.35〉	小学校：国を上回る・県を下回る	○
	中学校：国と同じ・県を下回る	○
特別の教科 道徳における児童生徒が自ら考え、話し合うような指導の工夫 〈学校質問紙 No.36〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を下回る	△
一人一台端末を活用した授業の頻度（週3回以上） 〈学校質問紙 小No.59 中No.57〉	小学校：国を下回る・県を上回る	○
	中学校：国・県を上回る	◎
家庭学習の方法等の児童生徒への教授 〈学校質問紙 小No.77 中No.75〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を下回る	△

③「思い遣る心」を育む生徒指導の推進の育成

先生は自分のよいところを認めてくれていると思う 〈児童生徒質問紙 No.8〉	小学校：国を上回る・県と同じ	◎
	中学校：国を上回る・県を下回る	○
人が困っているときは、進んで助ける 〈児童生徒質問紙 No.12〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国を上回る・県を下回る	○
いじめは、どんな理由があってもいけないと思う 〈児童生徒質問紙 No.13〉	小学校：国を上回る・県と同じ	◎
	中学校：国・県を上回る	◎

人の役に立つ人間になりたい 〈児童生徒質問紙 No.15〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国を上回る・県を下回る	○
友達と協力するのは楽しいと思う 〈児童生徒質問紙 No.18〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎
S C・S S Wによる相談体制 〈学校質問紙 No.11〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を上回る	◎

④健康・体力の向上

朝食を毎日食べる 〈児童生徒質問紙 No.1〉	小学校：国を上回る・県を下回る	○
	中学校：国を上回る・県と同じ	◎
毎日、同じくらいの時刻に寝ている 〈児童生徒質問紙 No.2〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国を上回る・県と同じ	◎
毎日、同じくらいの時刻に起きている 〈児童生徒質問紙 No.3〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国を上回る・県を下回る	○

⑤信頼される学校づくりの推進

家庭や地域との教育課程の趣旨の共有 〈学校質問紙 小No.73 中No.71〉	小学校：国・県を上回る	◎
	中学校：国・県を下回る	△
C Sなどの仕組みを生かした保護者や地域の方との協働 〈学校質問紙 小No.75 中No.73〉	小学校：国・県を下回る	△
	中学校：国・県を下回る	△

<引用・参考資料>

- ・「小学校学習指導要領」（文部科学省）
- ・「中学校学習指導要領」（文部科学省）
- ・「令和4年度全国学力・学習状況調査解説資料」（国立教育政策研究所）
- ・「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」（国立教育政策研究所）
- ・「令和4年度全国学力・学習状況調査報告書」（国立教育政策研究所）
- ・「令和4年度各種学力調査の結果の概要 ～調査結果と問題分析を踏まえた授業改善の方向性について～」（山梨県総合教育センター）
- ・「令和3年度甲府市における調査結果のポイント」（甲府市教育委員会）

【お問合せ先】

〒400-8585

甲府市丸の内1-18-1

甲府市教育委員会 学校教育課

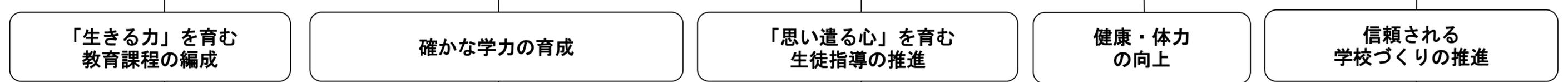
電話：055-223-7321 FAX：055-235-5648

令和4年度 甲府市学校教育指導重点

甲府の子どもの教育
 豊かな感性とたくましい行動力を持ち、互いのよさを認め合いながら、
 進んで自己の課題に取り組むことのできる、心身共に健康な児童生徒の育成を目指す。

思い遣る心とは
 自分を思いやる心
 他の人を思いやる心
 集団や社会を思いやる心
 自然や生命を思いやる心

重点目標
 ・「思い遣る心」の育成
 ・「生きる力」を育む教育の展開



□「思い遣る心」の育成を重視し、「生きる力」を育む、保幼小及び小中連携を意識した教育課程の編成と実施に努める。

1 「生きる力」を育む教育課程の編成と確実な実施に努める。
 ◎新学習指導要領の趣旨を踏まえ、カリキュラム・マネジメントに基づく教育課程の編成と実施
 ・グローバル化に対応した系統的な外国語教育の推進
 ・教育課程に基づく保幼小及び小中連携の推進

2 将来の生き方をみつめた体系的なキャリア教育の推進に努める。
 ・各発達段階に応じた指導計画に基づく指導の充実

3 特別な教育的支援の必要な児童生徒の教育の推進に努める。
 ・家庭及び関係機関との連携による「個別の教育支援計画」の作成・活用

□基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む意欲・態度を養い、「生きる力」「思い遣る心」の育成に資する。

1 組織的・計画的に授業改善に取り組み、確かな学力の育成に努める。
 ◎「甲府スタイル」による「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり
 ・基礎的・基本的な内容の確実な定着
 ・言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成
 ◎1人1台端末等のICTを効果的に活用する授業づくり
 ・学びに向かう力や人間性を育てる学習指導
 ・家庭と連携した学習習慣、読書習慣の確立

2 自己をみつめる力と「思い遣る心」を持った道徳的実践力の育成に努める。
 ・全教育活動を通しての一貫性のある道徳教育の推進
 ◎新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりと評価の工夫
 ・規範意識の醸成、生命を尊重する心の育成

3 楽しく豊かな学校生活を築くための特別活動の充実に努める。
 ・望ましい集団活動を通しての自主的実践的態度の育成

□不登校に対する総合的な取組の展開と学校いじめ防止基本方針に基づくいじめへの対応等を最優先課題とし、愛と信頼に基づく心のふれあう人間関係をつくり、「思い遣る心」の育成に努める。

1 校内指導体制の確立と機能強化に努める。
 ◎共通理解と統一した指導方針に基づく組織的な生徒指導
 ・共感的で適切な児童生徒理解、教師と児童生徒との信頼関係に基づく生徒指導

2 教育相談の充実強化に努める。
 ・教職員とスクールカウンセラー等との連携による教育相談

3 存在感が実感できる体験的・実践的活動の推進に努める。
 ・公共心と「思い遣る心」を基調としたボランティア活動等

4 家庭・地域・関係機関との連携を密にした生徒指導の推進に努める。
 ◎児童生徒を中心に据え、家庭、地域、関係機関の役割分担に基づく協働
 ・家庭、地域と連携した情報モラル教育

5 お互いの個性を大切にし、多様な人々と協働できる資質の育成に努める。
 ◎一人一人の人権を尊重し、個性を認め合うことで、ともに成長していくことのできる集団づくり、心の居場所づくり

□「生きる力」の基盤である、健康・体力・安全に関する資質と能力の育成に努める。

1 自己管理能力の育成と体力向上の基礎の育成をめざした健康・安全指導の推進に努める。
 ・基本的生活習慣の確立
 ◎日々運動に親しむ習慣の確立と体力の向上を意識した取組の推進
 ・食育、がん教育等の健康教育の推進
 ◎感染症への正しい理解を図るための指導と、適切な感染予防対策をとる態度の育成

□児童生徒、保護者、地域からの期待に真摯に応えようとする教員の姿勢を通して信頼を培い、子どもの教育に対する目標やビジョンを共有し、地域とともにある学校づくりの推進に努める。

1 全教職員の共通理解に基づく指導体制の確立に努める。
 ・学校関係者評価を含めた学校評価に基づく指導体制の一層の工夫改善、充実とその公表

2 家庭や地域との一層の連携を図り、信頼される学校づくりに努める。
 ・積極的な情報発信と授業の公開
 ◎保護者や地域住民が、学校の教育活動に参加する機会の充実と学校運営協議会設置に向けた準備

3 安全管理体制の見直しと充実に努める。
 ・安全教育の推進と実践的な訓練の実施、家庭、地域、関係機関等との連携による安全確保の徹底
 ・個人情報管理の徹底
 ◎危機管理マニュアルの改善と充実、危機発生時における迅速な対応